

・調査研究班：安来リブランディングプロジェクト班

1. 活動の目的

産（角久・モントローネ）・学（情報科学高校）・金（島根銀行）が手をつなぎ「安来のものをつかって安来市を活性化したい」という思いをかたちにし、広く安来の魅力を発信すること（地産地消～地産都商）を活動の目標とした。具体的には既存の安来産の大豆をつかった新たな価値の創造（リブランディング）と産学金の連携と地域の活動に参加し協働を学ぶことで地域の一員としての役割を知り課題解決能力や地元愛を養うことを活動の目的とした。

2. 実施科目

3年課題研究調査研究班 安来リブランディングプロジェクト班 週3時間

3. 対象生徒

3年 8名

・マルチメディア科（4名） ・情報処理科（4名）

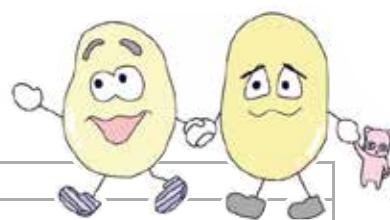
リブランディングキャラクター 生徒作  
キュウちゃんとモンちゃんとシマニーちゃん

4. 活動の内容

商品開発、マーケティング（市場調査）、接客・販売実習

○1学期

|    |  |
|----|--|
| 4月 | 班決定<br>活動内容の確認<br>プロジェクトメンバー顔合わせ<br><b>産・金</b> 業務についての説明・リブランディングについて説明<br>地元安来市について調査・大豆について調べる（豆乳・豆腐など）<br>大豆を使った商品を考える（企画書作成） |
| 5月 | 企画書 PP作成 ～ 商品案の発表<br>ターゲット、パッケージ、デザイン、販売方法、場所、流通経路など<br>商品化から販売までのアドバイスをいただき 再度企画書作成   |
| 6月 | 企画書 PP作成<br>再度 商品案の発表<br>下旬 商品化3商品決定<br><b>金</b> クラウドファンディングの説明  |
| 7月 | 3商品を担当するメンバーを3つのグループに分ける<br>クラウドファンディングの説明ページ割り振り～作成   |



○2学期

|        |   |
|--------|---|
| 8月     | クラウドファンディングページ・原稿作成<br>試食会準備 アンケートの作成   |
| 9月     | モニター調査準備 チラシ・アンケート作成  |
| 9月9日   | 学校(調理室)にて試食会・アンケート<br>安来市役所担当の方来校 パッケージにイエローバスの使用許可                                 |
| 9月21日  | 島根銀行にてモニター調査<br>3商品のパッケージデザインについて考える<br>マルチメディア室にてそれぞれデザインを作成                       |
| 10月    | 荒島駅ミニコンサート会場にてプレ販売<br>パッケージ作成・POP作成   |
| 10月23日 | 荒島駅イベントにて販売実習(3商品販売)<br>なんちゃって豆富(プレーン・いちご)<br>やみつき豆乳いちごプリン<br>まさげなおからクッキー(アーモンド・抹茶) |




やみつき豆乳プリン  
のある時季のみの限定商品



すべての商品のパッケージデザインや販売のPOPなど生徒がオリジナルで作成

9月21日 島根銀行にてモニター調査  
行員の方々やメディアの前で商品説明



|        |                                   |   |
|--------|-----------------------------------|---|
| 11月    | クラウドファンディングページ・原稿作成               |   |
|        | 商談会準備 チラシ作成                       |   |
|        | <b>販売用パッケージデザイン作成</b>             |   |
| 11月9日  | 安来市役所田中市長訪問                       |   |
| 11月18日 | HOK本店へ商談会（商品説明生徒4名参加）             |   |
| 12月    | 情報ITフェア：マルシェ販売準備                  |  |
|        | モンローネ店頭販売開始（2商品）                  |   |
| 12月5日  | 安来市役所前にて販売実習（3商品販売）               |   |
|        | クラウドファンディングスタート（約1ヶ月）             |   |
| 12月11日 | HOKプラナー店にて販売実習（3商品販売）             |   |
|        | 午前と午後の2グループにおいて販売実習               |   |
| 12月15日 | 安来駅・道の駅あらエッサにて<br>まさげなおからクッキー販売開始 |   |
| 12月21日 | 安来駅・道の駅あらエッサへ校外学習                 |   |
|        | 見学と道の駅あらエッサでは販売の指導をうける            | 荒島プレ販売 すべての商品が完売  |

### ○3学期

|      |                  |
|------|------------------|
| 1月   | クラウドファンディング目標達成  |
|      | 礼状書き             |
|      | 課題研究発表会プレゼン・原稿準備 |
|      | プロジェクトメンバー振り返り   |
| 2月9日 | 課題研究発表会 校内注文販売会  |



まさげなおからクッキーのパッケージ  
(安来市のイエローバスのデザイン)  
幸せを運びます！お土産物にいかかでしょう

道の駅 あらエッサにて  
商品の陳列・接客方法（お声かけ）など  
実際の売り場で指導をしていただきました。

## 5. 生徒の感想

### 【11月末】

2学期はいろんな所へ行ったり、いろんなことをしたと思います。1学期に商品が決まって、2学期のはじめにはもう形になっていて、試食会をした時、「本当に自分の考えたものがこうやって形にされて、夢かと思うくらい嬉しかった」です。クラウドファンディングの文章を作りながらパッケージデザインやアンケートチラシを作り、島根銀行本店へモニター調査に行きました。私は話すことが苦手だけど伝わるようにゆっくり落ち着いて説明をしました。銀行の方はやさしくて話しやすかったです。説明のことしか考えてなく、緊張して質問を忘れてました。モニター調査の後からパッケージデザインを作っていましたが、私はイラストレーターが使いなくて何時間もできない時がありましたが、自分のできることを探してクラウドファンディングの文章や商品説明の文章を考えました。10月の荒島駅のイベントでプレ販売をしました。クッキーは最後まで残ってしまったけどいろんな人

に買ってもらって、全部売れたので良かったです。11月には安来市長さんに試食をしてもらったり、クラウドファンディングをすすめたり、商談にも行きました。いろんな人と関わり、商品を食べてもらったりしてとても嬉しかったし、もっといろんな方に食べてもらいたいと思いました。12月の市役所であるマルシェもみんなで協力して成功させたいです。(Mさん)

2学期から本格的にはじまりました。パッケージ作りやラベル、シール作り、調理室での試食会～安来市長さんの試食会、クラウドファンディングなど販売に向けていろいろなことをしました。調理室では私たちが考えた商品が目の前にありびっくりしました。とうふを使ってスイーツを作るのはとても難しそうですが、想像していた何倍もきれいでおいしくて、さすがモントローネさんだと思いました。その後パッケージやラベル作りをして、どういう形、入れ物が食べやすいかいろいろ考えていて改めて商品を開発しそれが商品化するまでの大変さが分かりました。金額も考えてできるだけ私たちが思っている商品、デザインをいかしてくださった角久さんや島根銀行さんに感謝です。クラウドファンディングではたくさんの方達に見てもらいたく文章を作成したのですが、難しく苦労しました。私は文章を考えるのは苦手なので先生と一緒に他の文章を参考に作成しました。たくさんの方達にみてもらい寄付してほしいと願っています。荒島のイベントでは商品が完売して嬉しかったです。私の考えた商品ではなかったですが、たくさんの人たちに喜んでもらえて、先生や荒島の会の方まで楽しく笑顔で協力できてほんとうに良かったと思いました。市長さんの試食会では、商品を市長さんのところまで運ぶ係でしたがとても緊張しました。まさか、市長さんに食べてもらえとは思いませんでした。おいしいと言ってくださってモントローネさん角久さんはすごいなと思いました。(Mさん)

この2学期の活動は1学期と比べものにならないくらい忙しく大変でした。やはり一番手こずったのはパッケージデザインです。まずはデザインを考えるとところからでしたが、もうここから大変でした。何個かデザイン案を出し、角久さんや島根、先生方からのアドバイスももらいながら試行錯誤しました。最終的に一つの案に決まったと思えばそこから手直しの嵐でした。毎日のように19時まで居残ったの作業は地獄のようでした。でも〇〇ちゃんと先生も一緒に作業をしてくれたので最終まで頑張ることができました。さすがに、イエローバスのパッケージが最初から作り直しになった時は絶望しましたが、クオリティの高いものに仕上がって自分も満足しています。今回のパッケージの作成で学ぶこともたくさんありました。テキストの要素はアウトラインを作成したら文字が崩れずフォントが変わらないこととか、先生や外部の玉木さん、角久さんにも様々なことを教わりました。まだまだ未熟だと感じました。今回学んだことをこれからも活かせるようにしたいです。商品の販売では、自分の考えたものが形になって、いろんな人々に手にとってもらえてとても嬉しかったです。ここまでたどりつくまでいろんなことがあり、困難もありましたが、喜んで買っていかれるお客さんをみると頑張ってたかったと思いました。(Oさん)

私は初めてパッケージ作りをし、初めてイラストレーターを使いました。すんごく疲れました。慣れないことだらけで、うまく作れなかったり、動かすことができず、とても頭痛がひどかったです。なんちゃって豆富のパッケージを期間限定でも販売することができてうれしかったです。なんちゃって豆富のパッケージを作って販売するまでの期間は頭痛薬と共に過ごしました。やっと豆富のパッケージができたと思ったら今度はクッキーのパッケージ作成をすることになりうんざりする気持ちでしたが、どんどん慣れてきてすぐに完成させることができて良かったです。販売時はとても寒く立っている時間も長く大変でしたが、販売にかかわる人たちはすごいなと思いました。地域の幅広い年代の方々に会い、話し接客することができて良かったです。すごく貴重な経験をすることができました。安来市役所に行った時は、メディアも多く目をどこに向けて良いかわからず大変でした。後日、3社の新聞に掲載することができ良かったです。リーフレットやパッケージを作ることができて良かったです。**11/17(水)** 今日、パッケージ(おからクッキー単品商品シール)を作成しました。今日ぎりぎりですが、完成させることができて良かったです。最近やっとイラストレーターを使うことに慣れてきました。今までできなかったことなので、新しくできることが増えて良かったです。新しいシールデザインをかわいく作ることができてとても嬉しいです。できるようになったことを今後につなげたいです。入試も頑張ります。(Nさん)

### ☆リブランディングプロジェクト [12/5 マルシェ販売実習]

安来市役所で3つの商品を販売しました。前回よりも多く販売し、完売できるか、人が来てくれるのか不安でしたが、たくさんの方に来てもらい、たくさん販売しとても嬉しかったです。事前にたくさんの方の時間をかけて準備したのでたくさん売れて良かったです。パッケージやPOPをほめてもらうことが多く、時間をかけたかいがあり嬉しかったです。バスの箱も好評でたくさんの方が購入してくださり嬉しかったです。ライトアップもビンゴ大会もすごく盛り上がっていて販売員の私も楽しむことができました。モンローネさんのお店で準備したことはすごく細かい作業でとても大変でしたが、楽しくやりがいもありました。販売ではお客さんと関わりとても嬉しかったです。(Nさん)

前回荒島駅で販売したときよりも上手に接客ができたと思います。途中からイベントの司会をしました。ビンゴ大会で前に出てマイクを持つことは緊張しましたが、みんなが楽しんでくれていたので私も司会をして良かったと思いました。イベントでこういうことをすることが普段はないのでとてもいい思い出ができました。(Nさん)

完売してうれしかったです。家族もきてくれて買ってくれました。家に帰り一緒に食べて、家族もおいしいと言ってきて嬉しかったです。バスの箱も人気でお子さんにも喜んでもらって最後の IT フェアで販売できて良かったと思いました。寒い中来てくださったお客様、運営してくださった方々に感謝したいと思います。イルミネーションがきれいな中、マルシェで販売できたことに本当に感謝したいと思います。(Kさん)

### ☆リブランディングプロジェクト [12/11 プラナー販売実習]

今回は午後からの販売でした。気持ちは楽でしたが、スルーしていくお客さんやチラ見してどこかへ行くお客さんを見て心が砕けるような思いでした。ですが、「情報科学高校生だから」と言って買ってもらったり、イエローバスを見て「すごい!」「おもしろい!」「かわいい!」と言って手に取ってもらい、ちがう人には「孫が喜んでくれるんだ」と言って買って行かれる方もいて嬉しかったです。他には「すごくおいしかったからもう1回買う」と言って買っていかれとても嬉しかったです。「乳製品が入っていると食べられない」とすごく残念そうに帰って行かれてものすごく申し訳ない気持ちになりました。(Nさん)

ひとりひとりにきちんと「いらっしゃいませ」が言えたので良かったです。また、商品説明する際も分かりやすく説明できたので良かったです。お客さんの中にも「どじょっこテレビやニュースで見たよ」と言ってくれる方もいてみんなに知ってもらっていると実感しました。再び買いに来られた方や「クッキーがおいしかったのでまた来ました」と話された方もいて嬉しかったです。接客をしている時に「ごくろうさま」と話しかけてもらったりして地元のあたたかさを感じました。地元の方々と関わってみて感謝の気持ちでいっぱいです。(Yさん)

1年間このプロジェクトをしてきて不安なことだらけだったけど、楽しいこと嬉しいことの方が多かったです。自分たちが卒業した後も、これらの商品が残っていて欲しいと思うし、買いに行こうと思います。いつか自分でもこれらの商品が作れるようになりたいです。(Mさん)

## 6. 今後に向けて

コロナ禍でいろいろな活動が制限されるなか、産・学・金連携プロジェクトにより校内での学習ばかりでなく校外にでかけ、たくさんの方の方と出会い、協働し、繋がり、たくさんの方の学びの場をつくっていただき感謝の気持ちでいっぱいです。生徒たちは実際のビジネスの場面をじかに見て、働くことの大変さを実感するよい機会となりました。限られた授業時数の中でメ切期限のあるさまざまなやるべきことを生徒どうして教えあい、学科を超えて取り組む姿はまさに課題研究の時間でした。たびたびぶつかる困難を地域の方からのアドバイスにより解決に結びつけることもあり、現場のプロの方々の講義を企画する必要性を感じることも2学期以降増えてきました。年度当初に展開が予想できなかったこともあり、生徒には負担をかけることが多く反省材料となりました。連携による学びにより、地域の中の高校生として将来の地域の一員としての役割を理解し地域で活躍する大人をイメージすることができたように感じています。

今年度の連携プロジェクトは、地域の関係の方々との多大なご協力により活動することができました。はじめに掲げた目標の“地産地消から地産都消”を達成するためにもう少し時間



リブランディング ロゴ 生徒作  
J情報・S角久・Mモンローネ・S島銀

が必要となった。安来の魅力を広める、情報科学高校の学びからできることを発信し、地域に役に立つ存在となるよう取り組んでいきたい。

## ・CGデザイン研究班

### ① 活動の目的

デザインの技術・手法の習得とともに、制作物によって、デザインの新たな価値を提案・創造していける人材の育成を目指す。そのために、単にデザイン技術の向上のみならず、広告等の依頼主の意向や期待を汲み取り、依頼された分野の知識・背景の調査研究の必要性を理解し、的確に行える調査研究能力、自分の能力をどのように地域の発展や課題解決に役立てられるかを自ら考え、行動できる力を養う。

### ② 実施科目 課題研究CGデザイン研究班 週3時間

### ③ 対象生徒 3年生 17名 (マルチメディア科6名 情報処理科5名 情報システム科6名)

### ④ 活動内容および活動の様子 実践的なプロジェクト

#### a. 「情報科学高校で遊ぼう学ぼう講座」ポスター コンペティション

生徒は4・5月にPhotoshopやIllustratorなどの使い方、word文書への反映方法などを学習した後、実際の作品制作に取り掛かった。まずは、本校で月1回開催しているあそまな講座のポスターを題材に、コンペティションを開催した。

生徒同士と教員3人でそれぞれ良いと思う作品に投票し、4名の作品を選出した。(改良し出来上がったものはP. 11に掲載)

また、あそまな講座のポスターには採用されなかったものの、評価の高かった生徒の作品を、夏季休業中のオープンキャンパスのポスターとして作り替え、実際に採用された。



オープンスクールポスター

#### b. 「月山富田城 鹿肉カレー」パッケージデザイン (課題研究 観光ビジネス班との連携)

課題研究 観光ビジネス班からの依頼を受け、開発する鹿肉カレーのパッケージデザインを考えた。カレーのコンセプト、パッケージに載せたい内容などを聞き、生徒が作成した案を審査し、そのうち1名のデザインパーツが使用されることとなった。(改良し出来上がったものはP. 38に掲載) 完成品は、市販のレトルトカレーのパッケージと同様、長方形の薄型立方体のものである。しかし授業の最初では、固定観念を取り払い、形や材質など、どのようなものを用いれば、ストーリー性を表現できるか、購入者に楽しい時間を提供できるかなどを考え、個性豊かな案が多く出た。

この活動を通し、生徒には、当たり前と思っている概念を疑い、取り払って考えてみることの重要性を伝えたかった。また、商品そのものの良さを表現することに留まらず、その先に新たな価値の提案も可能であるということを感じ取れた様子であった。








提案時のイメージ

#### c. ビジネスチャレンジ事業 (安来市内企業との連携)

安来市、商工会、商工会議所により組織されている「産業サポートネットやすぎ」との連携事業として、市内企業4社(一風亭様、フォト文具いちかわ様、ランカーワークス様、予防美容サロン桜様 以下敬称略)のロゴや広告などのデザインの挑戦する機会をいただいた。作品制作の過程で、産業サポートネットやすぎから、観光バスをチャーターしていただき、実際に企業を訪問した。来校いただいた事業者さんから、実際にお話を聞くこともできた。

<実施内容>

| 日時                           | 授業内容   |  |
|------------------------------|--|--|
| 10月<br>12日(火)<br>13:35~15:25 | <p>企業訪問 一風亭</p> <p>月に1回開催している、包丁研ぎのチラシ作成を依頼したい、若い人の感性にも訴えかけるようなデザインにして欲しいという要望を受けた。また、背景に安来の製鉄・鉄鋼業の歴史や職人の存在を知る機会となった。実際に包丁研ぎを行っている職人の方が偶然いらっしゃり、鉄でできた刃物への思いや取り扱いについて直接お話を伺うことができた。</p>   |   |
| 10月<br>21日(木)<br>14:35~15:25 | <p>事業者来校 フォト文具いちかわ</p> <p>2月から販売する、お守りキーホルダーの販促用ポスター・ポップの依頼を受けた。本社が位置する広瀬町には、難攻不落として有名な月山富田城があり、それをモチーフにした「難校不落」のだるま型キーホルダーを自社で開発した。ターゲットは受験を控えた中高生で、尼子氏や山中鹿介を題材に仕上げてほしいとのことだった。説明を受ける中で、「受験生ももちろんだが、受験生を家族や親せきに持つ人も、目についたら買うのではないかな。そういう人の目も引くようなデザインを作ってみたい。」という生徒からの意見も複数出てきた。それを聞いた事業主からは、新しい視点を得たと喜ばれた。</p>   |  <p data-bbox="1166 891 1396 913">ICT教室で商品の説明を受ける</p>   |
| 10月<br>26日(火)<br>13:35~15:25 | <p>事業者来校 ランカーワークス</p> <p>今年9月に開業した、水道工事を行う企業で、企業ロゴマークおよび名刺デザイン依頼を受けた。色は赤黒をベースにし、20代~40代をターゲットにした、生徒自身が格好いいと思うものを提案してほしいという希望であった。また、社名の由来や、若くして起業された経緯などもうかがうことで、生徒たちはイメージを膨らませていた。</p>  |  <p data-bbox="1174 1240 1388 1263">ICT教室で企業説明を受ける</p>  |
| 11月<br>2日(火)<br>13:35~15:25  | <p>企業訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予防美容サロン桜</li> </ul> <p>髪をカットしたりパーマを施したりする場所ではなく、抜け毛・白髪・頭皮のかゆみなどから、体の不調サインを見つけ、美容メニューでその不調を軽減することを目的とした美容院で、今回は店のロゴマークやチラシのデザインを自由に考えてほしいという依頼であった。実際に店舗を訪問し、店内の雰囲気、頭皮をスコープで調べる様子を拝見した。ターゲットは男女年齢問わないが、健康が気になる人の目に留まるような作品を期待するとのことのお話であった。ピンクや青、紫といった血流の良さそうなイメージの色を使い、黒を出来るだけ使ってほしくないという要望もあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フォト文具いちかわ</li> </ul> <p>10月21日に本校で商品についての説明をいただいたが、実際に店舗を訪問した。文房具や雑貨などの販売ブースの奥に、撮影スタジオがあり、そこで車座になって、今後の展開を話し合った。前回の説明会を受けて、どのようなイメージで作品を仕上げようと思っているかを、生徒それぞれが話し、社長にアドバイスを受けた。</p> |  <p data-bbox="1214 1619 1343 1641">予防美容サロン桜</p>  <p data-bbox="1206 1906 1358 1928">フォト文具いちかわ</p> |

<成果発表会>

日時：1月25日（火）9：00～10：55 場所：本校 ICT 教室

出席者：一風亭 石田優美 様、フォト文具いちかわ 市川修平 様、ランカーワークス 世佐木優 様、  
 予防美容サロン桜 安部朋美 様（動画によるメッセージ）、安来商工会議所 渡部仁 様、  
 亀田直人様、安来市役所 日向直之 様、安来市商工会 門永隆太郎 様、  
 JA しまね安来地区本部 仲井健司 様、本校 CG デザイン研究班 生徒17名、教員3名

内容：10～12月に制作した試作品を、各事業者に数作品を選定していただいた。その後、選ばれた作品をブラッシュアップし、プレゼン形式で発表、披露した。



採用作品

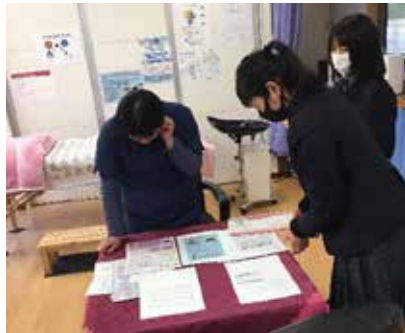
|                 |                  |
|-----------------|------------------|
| <p>一風亭</p>      | <p>フォト文具いちかわ</p> |
| <p>ランカーワークス</p> | <p>予防美容サロン桜</p>  |

出席者からの感想

- ・生徒のみなさんがそれぞれ工夫して思いが伝わってきてよかった。
- ・いいものを残したいという思いが感じ取られた。自分もこれをビジネスチャンスに変えていきたい。
- ・作っていただいたものを看板にしてこれから頑張っていきたい。
- ・気づくことや学ぶことがたくさんあったこれからも作っていただいたものを使っていきたい。



## ⑤ 活動による変化



作品選考をお願いする代表生徒

この授業を通して、生徒は単にデザインのスキルを向上させることだけでなく、依頼主の「ああしたい」「こうしたい」という意向を汲むこと、その作品によって見る人にどうい行動を促したいかという視点が必要であることを、身をもって学ぶいい機会となった。また市内企業との折衝において、各企業に責任者を2名ずつ配置し、最初の顔合わせ

から作品選出に至るまで、生徒が責任を持って対応するよう指導し、教員はサポートに専念した。それにより、生徒間の情報共有や作品の集約を、生徒同士で工夫し、自ら考える行動に慣れていく姿が見られた。

### <生徒感想>

- ・成果物を発表し、企業の方からも称賛してもらうことができたので達成感や今まで実習してきたことに価値があると思いました。

- ・初めころはデザインとアートの違いが分からず、同じようなものだと思っていました。しかし、実習を進めるうちにデザインとは、製作者の意図が伝わらないと意味がないと思いました。アートのように自分の

思うままに制作しては、デザインとして成り立たないので、見る人に対してどうしてほしいかやどうしなければいけないのかを考える必要があるということ学びました。



名刺交換する代表生徒

### (3) 安来市のオープンデータを活用した取り組み

#### 【インフォグラフィックスで伝えよう】

##### 1. 対象生徒・授業

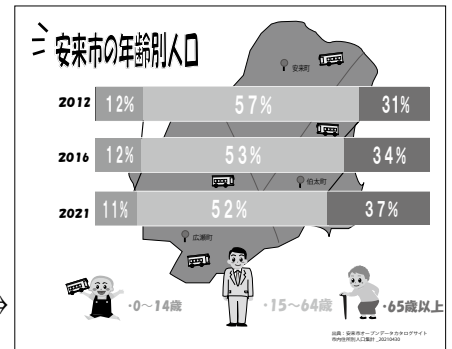
2年生マルチメディア科 「情報デザイン」

##### 2. 活動内容・目的

2年生マルチメディア科の情報デザインでは、情報を「誰にどう伝えるか」をいつも考えてデザインをしている。Adobe Illustrator や Photoshop などのソフトウェアを活用し、それを使いこなす知識技術も培う。最も重要なのは、それらのソフトを使いこなすことではなく、テキスト、画像、グラフなどを駆使し、ターゲットに対していかに情報をわかりやすく、インパクトをもって伝えられるかという点です。このスキルは、色彩、バランス感覚、フォント選び、グラフや画像加工処理など、様々な知識・技術を必要とします。1年間このような基礎知識を学び、3学期は安来市のオープンデータを活用したインフォグラフィックスを制作しました。

様々なデータの中から、自分の興味関心のある分野のデータを各自が選び、制作しました。データのカテゴリに合ったイラストを描き、グラフをアレンジしており、生徒1人ひとりの作品に個性が溢れ、見ていてとても楽しいです。3年次に発表会を開催し、伝えたいことや作品に込めた想いを語って、作品紹介をします。友人の作品から刺激を受けます。またプレゼン発表で、「伝える力」の向上を期待します。

生徒作品（下書き）⇒



#### 【安来市オープンデータ活用ワークショップ】

##### 1. 対象生徒・授業

2年生情報システム科 「プログラミング・ビジネス情報」

##### 2. 活動内容・目的



令和4年2月7日、オープンデータの専門家である名古屋大学の遠藤守教授による、オープンデータワークショップが開催されました。この取り組みは、安来市の事業の一環として行われています。本校の生徒が、将来オープンデータを活用して安来市の状況を分析し、課題を見つけて解決することができるように、必要な知識・技術を育成して、データ活用経験値を向上させることを目的としています。当日はオープンデータについての基礎・基本を学習した後、グループに分か

れて実際にデータを活用・分析して課題解決策を話し合っ  
てまとめ、プレゼン発表するという活動を行いました。生徒達は初  
めてオープンデータを扱い、データの重要性や可能性に気づく  
ことができたと思います。卒業後もこの経験を活かしてもらい  
たいです。

<各チームの発表内容>

- ・安来市内の公衆トイレの設置状況、
- ・飲食店支援のクーポンサービスの提案
- ・オンライン授業
- ・市内飲食店のコロナ対策がわかるデータ公開の提案



#### 【安来市のデータ分析で現状と課題を知る】

##### 1. 対象生徒・授業

2年生情報システム科 「ビジネス情報管理」

## 2. 活動内容・目的

2年生のビジネス情報管理では、1月に全商情報処理検定ビジネス情報部門1級を受験します。この検定試験の学習内容には、現在求められている力の「データ分析」力を向上させる知識技術があります。

データを加工分析して、未来を予測したり、重点管理する商品を分類したり、最頻値や中央値など統計学に関連する学習も行います。そこで、これらの学習で得た知識技術を活かして、地元安来市のオープンデータを分析して、自分なりに課題を見つけて解決策も考えてみる活動を行っています。卒業後も、ますますこのようなデータ分析力が求められると思うので、この経験を活かし、答えの無い課題に向き合ってもらいたいと思います。生徒のレポートの一例を掲載するので、ご覧ください。生徒は自分なりの視点を持ち、データを加工して見てとれる現状から、その原因などを推察し、そこから課題の解決策を見いだしています。

### 2-3 ビジネス情報管理 安来市オープンデータを活用したひとり一研究

| 番号・氏名                       | 番号   |       | 氏名    |  |   |       |       |       |      |     |     |    |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |
|-----------------------------|--|-------|-------|--|---|-------|-------|-------|------|-----|-----|----|------|-----|-----|----|------|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|------|-----|-----|----|------|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|------|-----|-----|--|------|--|--|--|------|--|--|--|------|--|--|--|------|--|--|--|------|--|--|--|
| 研究テーマ                       | 届出数から予想する安来市人口推移   |       |       |  |   |       |       |       |      |     |     |    |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |
| テーマの設定理由                    | 今までの人口推移からではなく、別の視点から予想をしてみたらどんな違いが表れるのか気になったから。   |       |       |  |   |       |       |       |      |     |     |    |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |
| 仮説                          | 人口は減ると予想される  |       |       |  |   |       |       |       |      |     |     |    |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |
| 使用するデータ                     | オープン島根県データカタログサイト【安来市】戸籍年間届出件数   |       |       |  |   |       |       |       |      |     |     |    |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |
| 分析結果<br>(検証)                | <p style="text-align: center;">届出総数比較</p> <table border="1"> <caption>届出総数比較 (2013-2025)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>出生届総数</th> <th>婚姻届総数</th> <th>死亡届総数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2013</td><td>471</td><td>608</td><td>99</td></tr> <tr><td>2014</td><td>498</td><td>558</td><td>99</td></tr> <tr><td>2015</td><td>490</td><td>727</td><td>111</td></tr> <tr><td>2016</td><td>474</td><td>749</td><td>116</td></tr> <tr><td>2017</td><td>438</td><td>738</td><td>82</td></tr> <tr><td>2018</td><td>436</td><td>755</td><td>102</td></tr> <tr><td>2019</td><td>449</td><td>718</td><td>101</td></tr> <tr><td>2020</td><td>387</td><td>498</td><td></td></tr> <tr><td>2021</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2022</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2023</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2024</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2025</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>このように、出生届総数は減少しているのに死亡届総数は停滞しており、市の人口は減少傾向にあると考えられる。また、婚姻届総数も減少しており、新たな家族の増加もあまり見込めない。</p> |       |       |  | 年 | 出生届総数 | 婚姻届総数 | 死亡届総数 | 2013 | 471 | 608 | 99 | 2014 | 498 | 558 | 99 | 2015 | 490 | 727 | 111 | 2016 | 474 | 749 | 116 | 2017 | 438 | 738 | 82 | 2018 | 436 | 755 | 102 | 2019 | 449 | 718 | 101 | 2020 | 387 | 498 |  | 2021 |  |  |  | 2022 |  |  |  | 2023 |  |  |  | 2024 |  |  |  | 2025 |  |  |  |
| 年                           | 出生届総数  | 婚姻届総数 | 死亡届総数 |  |   |       |       |       |      |     |     |    |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |
| 2013                        | 471  | 608   | 99    |  |   |       |       |       |      |     |     |    |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |
| 2014                        | 498  | 558   | 99    |  |   |       |       |       |      |     |     |    |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |
| 2015                        | 490  | 727   | 111   |  |   |       |       |       |      |     |     |    |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |
| 2016                        | 474  | 749   | 116   |  |   |       |       |       |      |     |     |    |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |
| 2017                        | 438  | 738   | 82    |  |   |       |       |       |      |     |     |    |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |
| 2018                        | 436  | 755   | 102   |  |   |       |       |       |      |     |     |    |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |
| 2019                        | 449  | 718   | 101   |  |   |       |       |       |      |     |     |    |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |
| 2020                        | 387  | 498   |       |  |   |       |       |       |      |     |     |    |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |
| 2021                        |  |       |       |  |   |       |       |       |      |     |     |    |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |
| 2022                        |  |       |       |  |   |       |       |       |      |     |     |    |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |
| 2023                        |  |       |       |  |   |       |       |       |      |     |     |    |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |
| 2024                        |  |       |       |  |   |       |       |       |      |     |     |    |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |
| 2025                        |  |       |       |  |   |       |       |       |      |     |     |    |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |
| 分析結果の感想<br>見つけた課題<br>課題の解決策 | <p>近似曲線を使って予測をしてみて、予想出生届総数が思った以上に急激に減っていて驚いた。課題として、「死亡する人数に対して生まれる人数が全く足りていない事」が見つかった。同時に、婚姻届の提出数も少なくなっており、これからの人口の増加に対する期待も見込めない。</p> <p>解決策として、子育て支援に力を入れ、他の地域から新たな家族を集めたり、未婚で相手を探している人同士で出会えるようなイベントを開いたりする事が必要と考えられる。</p>  |       |       |  |   |       |       |       |      |     |     |    |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |    |      |     |     |     |      |     |     |     |      |     |     |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |      |  |  |  |

### 3. カリキュラム開発部会

今年度は令和3年7月15日と令和4年2月1日に開催し、それぞれ地域探究基礎の実施報告と検証、今後の授業展開に関する助言を受け、授業に反映させた。また、「地域探究応用」の授業計画を審議し、令和4年度からの運用に向けて準備を進めた。

#### (1) 地域探究基礎

##### 1. 科目の目標

- ・地域探究活動を通じて地元理解、課題発見、問題解決能力の育成・メタ認知の重要性・データの扱い方・プレゼンテーション能力・論文の書き方などを習得する。

##### 2. 授業展開

- ・使用教材：「情報と問題解決」・「高校生からのビジネスマナー」・自作プリント
- ・授業は商業科教員2名ずつのTTとする。
- ・毎回の授業ごとに生徒にGoogle Formから授業の内容・感想・学んだことなどを入力させ、教員が学習状況を確認できるようにしている。

### 3. 地域探究基礎の実施報告

#### 1 学期

|    |     |  |
|----|-----|--|
| 4月 | 14日 | 1年生全体に対してオリエンテーション・科目の趣旨、学習の方向性などを指導               |
|    | 21日 | ビジネスマナー テキストに沿って、一般的なマナー指導                         |
|    | 27日 | ビジネスマナー  |
| 5月 | 19日 | ビジネスマナー  |
|    | 26日 | ビジネスマナー  |
| 6月 | 2日  | 安来に関する知識調査 Google Form を用いてアンケート形式で安来についての理解レベル調査。 |
|    | 9日  | 問題解決の手順 SWOT分析 PDCAサイクル                            |
|    | 16日 | 安来の歴史 地歴公民科による指導                                   |
|    | 23日 | 解決の手法 5W1H KJ法 データの種類                              |
|    | 30日 | 期末テスト返却 700/800問題について考える。                          |
| 7月 | 14日 | 安来について 知識調査解説                                      |

夏季休暇課題：市の観光課が発刊した地元紹介誌を配布し、紙面で取り上げられている人物、場所、企業など興味関心がある記事の感想、自身で深掘りした調査結果をレポートにまとめる。

#### 2 学期

|     |     |                              |
|-----|-----|------------------------------|
| 9月  | 1日  | 夏季休暇課題の内容について意見発表            |
|     | 8日  | 前回の続き                        |
|     | 15日 | 夏季休暇課題の内容について深掘り探究活動         |
|     | 22日 | 安来や島根について深掘り探究活動             |
|     | 29日 | 市役所の方から市の概要について講演 若年者の就業、動静等 |
| 10月 | 13日 | 前回の講演内容から深掘り探究活動             |
|     | 20日 | 地域で活躍する方々の講演 1               |
| 11月 | 10日 | 前回の講演内容をクラスで報告・感想の発表         |
|     | 17日 | 地域で活躍する方々の講演 2               |
|     | 24日 | 前回の講演内容をクラスで報告・感想の発表         |
| 12月 | 8日  | 簡単なテーマから自分の意見を発表する 1         |
|     | 15日 | 簡単なテーマから自分の意見を発表する 2         |

### 10/20の講師様

| 勤務先            | 役職名        | お名前   | お話の分野・具体的な内容                |
|----------------|------------|-------|-----------------------------|
| 安来節演芸館         | 支配人        | 増田明美  | 埼玉出身。外から見た安来市。安来節の魅力など。     |
| しまねソフト研究開発センター | 情報産業アドバイザー | 野々村正仁 | 安来高校出身。元ヤフー、グーグル部長。         |
| 安来節保存会         | 家元四代目      | 渡部お糸  | 世界公演の話など。安来節の魅力。            |
| 矢田醤油店          | 管理栄養士      | 矢田敦子  | Uターンで家業の醤油屋を継ぐ。高校の近くの醤油屋さん。 |
| いちご農家          | 苺やkiritto  | 池田佳奈  | Iターンで新規就農。農園近くのカフェを経営       |
| 旅館さぎの湯荘        | 社長         | 田辺大輔  | おもてなしの心。接客。                 |
| エカイブ・エージェント(株) |            | 松浦士登  | コンサルティング業を起業。市内在住。          |

### 11/17の講師様

| 勤務先           | 役職名  | お名前  | お話の分野・具体的な内容                                 |
|---------------|------|------|--|
| 加納美術館         | 館長   | 千葉潮  | 中学教科書に登場した加納カンライのお孫さんにあたる。Uターンで館長に。          |
| 安来市観光協会       | 事務局長 | 門脇修二 | 元県観光誘客アドバイザー。NHKドラマを活用した地方創生。旅行業界。これからの観光など。 |
| 大森ファーム        | 代表   | 大森雄介 | IT企業からイチゴ農家に就農。                              |
| 安来地域介護支援専門員協会 | 会長   | 宇山広  | 高齢者福祉。社会福祉法人やすぎ福祉会 小規模多機能センターひだまりの里所長。       |
| いさとふあーむ       | 代表   | 山下勇人 | なぜ、安来で農業か？大阪からIターンした事などを話せればと思います。           |
| 玉木慶商店         | 専務   | 玉木純一 | ●月の輪神事から広がる安来の今昔<br>●安来の手仕事職人のグローバル化         |
| 有限会社 角久       | 営業   | 角 寛志 | 「安来の大豆から」美味しいサステナブルなものづくり                    |

各班 15 名程度で実施。翌週は自分の班の話をクラス全員に発表する。

### 3 学期

|     |      |                       |
|-----|------|-----------------------|
| 1 月 | 12 日 | 身近なテーマ、地域の問題などで意見発表   |
|     | 19 日 | 地域や活性化実例など調査・プレゼン資料作成 |
| 2 月 | 2 日  | 地域や活性化実例など調査・プレゼン資料作成 |
|     | 16 日 | 地域や活性化実例など調査・プレゼン資料作成 |
| 3 月 | 16 日 | クラス内で上記内容のプレゼン活動      |
|     | 23 日 | クラス内で上記内容のプレゼン活動      |

### 4. 感想・課題

- ・地元に対する理解・知識・興味・関心は向上した。生徒の学校評価アンケートにも反映。
- ・地域で活躍する各分野の方に来校してもらい講義を受け、様々な角度から地域を知る機会を得た。また、その様子をクラスで共有することにより、意見発表の経験を重ねることが出来た。
- ・教員が提供するテーマで授業を進めるが、生徒は総じて受け身であり、「もっと知りたくなる」という活動には及んでいない。
- ・週 1 単位のため、計画的に進めることが出来ない。諸事情で授業間隔が空くことがある。年間 30 時間程度となることを想定して、計画を立てておく必要がある。

## (2) 地域探究応用

2回の部会を通じて、以下のカリキュラムを策定した。

### 1. 科目の目標

- (1) 地域探究活動を通して地元理解、課題発見、課題解決能力を育成する。
- (2) 地域産業発展に貢献できる人材を育成する。
- (3) 年間を通して様々な課題に取り組み、基礎的な学習能力を育成する。
- (4) キャリアプランニング能力を育成する。
- (5) 地域探究基礎での学びを基に疑問に感じることを深掘りしていく態度・能力を育成する。

### 2. 授業展開

- ・ 1学期前半はクラス単位で分析・問題解決能力、発信力・プレゼン能力を育成する。
- ・ 少人数で討論させる。資料収集・分析を地域探究基礎での学習を基に実践する。
- ・ 1学期中間テスト後から1担当者につき5名程度の班を編成し、探究活動を行う。  
R4年度2年生は100名程度。 22名の教員が担当予定。教員1名で4から5名担当。  
商業科教員9名  
共通教科教員13名（国語3、地歴公2、理科1、数学2、芸術1、英3、家1）

### 3. 探究テーマ設定コンセプト

- ・ 現在、学校で学んでいる情報処理に係る知識・技術を使って地域貢献に繋がることはできないか。または、自身のアイデアで地域に対して、どんなことが出来て、どんな利益をもたらすことが出来るか考えさせる。単に地域のことを調べるだけではないことを強調する。

#### ●参考

先進校で扱われたテーマの例

- |               |                   |            |
|---------------|-------------------|------------|
| ・ 外国人観光客を増やす  | ・ 人手不足の解消         | ・ スポーツの振興策 |
| ・ 子育てしやすい街にする | ・ 自転車問題           | ・ 人口減少     |
| ・ 健康長寿の町にする   | ・ 防災              | ・ ゴミ減量     |
| ・ 幸せなふるさとの作り方 | ・ 事故の原因と対策究明      | ・ 効率よい暗記   |
| ・ 飲食業と連携      | ・ 地元の隠れた特産品を有名にする |            |

- ・ 発表は個人ではなく担当教員班ごとに1本。 現在の課題研究を想定。
- ・ 2学期末 体育館で発表 状況によっては各教室で中継
- ・ 3学期 プレゼン・ディベートなど他者への発信力をさらに育成

### 4. 課題

「地域探究応用」は学校設定科目であるが、これまでの教育課程で行っていた学校設定科目「キャリア基礎」を商業科教員が中心に担当してきたため、教員間では「地域探究応用」も商業科教員が担当する、という認識がある。教科横断的に学校グランドデザインに掲げる生徒像育成のため、全職員で担当する意識の醸成が必要である。これまでに学校長より全職員に大綱が示され、教科主任会で概要および基本的な指針を示した。年度末に向けて、全職員にシラバスを提示して共通理解を図る必要がある。

また、担当者間での評価の揺らぎがでないよう具体的な授業展開や評価方法について示す必要がある。その実施については本キャリア開発部会と校内の探究学習推進委員会が中心となって遂行しなければならない。

### (3) ICT サロンの実施

#### 1. 活動の目的

ICT サロンは、本校教員対象の自主的な ICT 研修会である。令和4年度入学生から iPad での BYOD を開始し、ますます学校としても ICT 活用の推進が求められるため、このような研修会を企画し実施した。この ICT サロンによって、教職員の ICT 活用能力をさらに向上させて、授業や各分掌の業務などに積極的に活用してもらい、本校が目指す「デジタルイノベーション創出人材」の育成に資することが、この事業の目的である。

#### 2. 対象

本校教職員。任意参加。

#### 3. 実施日

第1回 令和3年7月6日(火)

第2回 令和3年7月27日(火)

#### 4. 活動場所

本校 ICT 教室



#### 5. 活動内容

ICT サロンの講師には、本校の IT 人材育成事業で週に2回来校される、石倉淳一さんに依頼した。石倉さんはミニマルエンジニアリング代表で、7年前から継続して本校の授業(主に課題研究)に入っており、指導してもらっている。Google の認定資格の保有者であり、教員ではわからない高度な専門知識を持っており、困ったときの相談役として常に頼れる存在である。

今回石倉さんには、Google ワークスペース関連で必要性の高い Google ドライブと、Google フォームの活用方法についてそれぞれ演習・講義をしていただいた。

##### ■第1回は Google ドライブの活用について

Google ドライブでの情報共有は、とても便利な反面、情報漏洩の危険性をはらんでいる。マイドライブ、共有ドライブ、マイドライブのファイルの他者とのデータ共有など、単純なようで複雑な仕組みをわかりやすく教えていただいた。個人情報などデータの扱いに留意しながら、快適に情報共有するためにも必須の知識を習得することが出来た。

##### ■第2回は Google フォームの作成・活用方法について

多くのアンケート調査を私達は生徒に課すし、また小テストなどもある。生徒の振り返りや考えをいち早くスムーズに収集するのに長けたこのアンケートフォームの活用方法知っているのと知らないのとでは、作業量が全く異なる。この Google フォームの研修をきっかけに、多くの調査が紙ベース+教員入力からフォームで入力要らず、自動集計に変わることを期待して、企画した。

#### 6. 研修後の状況

今年度は2回しか研修を実施することができなかったが、本校での ICT 活用は活発に、順調に進んでいると感じている。それは下記の状況からだ。

- ・職員会議資料が Google ドライブ、ipad または PC で会議 が安定的にできている。
- ・人権アンケート、進路希望調査の Google フォーム化
- ・各種アンケートの終礼時実施が定着(1年 iPad、2・3年スマホ)
- ・Google クラウドでの情報伝達、授業での活用の活発化

来年度は Chromebook の BYOD が始まるが、スムーズな活用が見込める。まだ、Google フォーム化しない調査もある(学習時間調査、健康観察)が、必要性を見極めながら、今後も魅力化推進部・DIP で推進していきたい。

# 第2回 ICT サロン

今年2回目。今回はgoogleフォームの作成方法を、演習形式で行います。授業の振り返りや、各分学・委員会・部活動における調査系業務の効率アップが図れます。

Google の認定資格をもつエンジニアの石倉淳一さんが、わかりやすく説明していただきます。楽しくてタメになる、カジュアルな研修会です。ぜひ、どうぞ！

日 時:令和3年7月27日(火)14:40~15:40

場 所:ICT 教室 または

内 容:Google フォームの作成方法、活用方法

その他、Google クラスルームなどでお困りのこと、チャレンジしたいけど方法

がわからないこと…などにも個別に対応いたします。

講 師:石倉淳一さん(Google の認定資格保有)

参加者:どなたでも歓迎！(自由参加です^^♪)

持ってくるもの:ご自分のipadなど(ICTの ipad も利用可)

～下記にご記入ください～

参加してみようかなあという先生  
お名前をこちらにご記入ください

こんなことが知りたい…





## V その他の取り組み

### (1) 令和3年度課題研究発表会

探究学習の総まとめとなる位置付けの「課題研究」を3年生が履修している。1年間の取り組みを全校生徒や保護者、授業関係者などに紹介することにより、学習内容の周知と生徒の達成感やプレゼンテーション能力育成の一環として企画している。例年は映像・音響・客席などの設備の整った外部会場で行っているが、全国的なコロナ感染拡大第6波の影響で規模を縮小せざるを得なくなった。協議の末、学校を会場とし、発表生徒は臨時



のスタジオとして用意した教室から Youtube によるライブ配信を行い、一般生徒は各教室で視聴することとした。また、この配信は生徒保護者、課題研究関係者、学校関係者、安来市内の小中学校など一般にも公開した。

#### 【当日のスケジュール】

開会挨拶 8:55

発表 9:00 課題研究 7つの班の発表 1班12分程度

独自発表 11:00 2年生「キャリア基礎」クラス代表発表 各クラス代表 3名

11:20 1年生「地域探究基礎」授業取り組み内容発表 学年代表 4名

講演 12:00 今岡純二様 (株)テラスカイ取締役常務執行役員・本校2期生)

#### 【課題研究の7つの班の発表概要】

調査研究班：荒島駅を利用した地域活性化活動

〃：地元企業とリブランディング活動

CGデザイン研究班：デザインの基礎知識と地元企業との連携活動

簿記研究班：簿記の資格紹介と株式模擬取引

観光ビジネス班：IT技術を使った商品開発、買い物弱者支援、食品ロス支援

情報処理研究班：情報処理関係の国家資格の内容と取得のメリット

答えのない課題班：ディベートの紹介と取り組み例の紹介

ITフェア企画班：情報ITフェアの実施内容、評価、動画紹介など

#### 【詳細】

配信は専門の業者に依頼し、当日の Youtube 配信に必要な機器の設営、運用を行った。配信画面もプレゼン用のスライドをメインとし、発表生徒をワイプで映しつつ、発表班名などの表示を加えた。また、講演会については関東にある講師の自宅と学校を ZOOM で繋ぎ、それを Youtube 配信した。

生徒には事前にQRコード付きの感想用紙を配布し、各発表の感想・評価をGoogleフォームにて行った。

直前で会場変更となったが、コロナ禍での安全を確保しつつ、今後も学校行事などを外部にライブ配信する可能性を得ることができた。



実際の画面

## (2) しまね留学・地域みらい留学における取組

県外の中学生に対する広報活動「地域みらい留学・しまね移住フェス」など

「地域みらい留学」は、県外からの受験生募集のために、一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォームが主催するイベントである。しまね留学の取り組みが全国区に広がり、地域みらい留学となった。

本校は約4年前からこの地域みらい留学に参加。県外生へのアピールの場として、令和元年度までは、集客型イベントに参加していたが、令和2年度からはコロナ禍の為、全てオンラインでの開催となった。全国の参加校（約60校）に肩を並べて、ZOOMにてプレゼンテーションし、本校の魅力について紹介している。本年度は、県外出身の1年生が、「しまね留学生」として、本校の学習内容の紹介や宿泊施設での生活などについてピーアールを行った。教員がプレゼンテーションをするよりも、説明会に参加者した中学生や保護者にとっては、具体的な内容におよび、より多くの質問が寄せられた。

これまでの参加状況は下記のとおり。

### ■地域みらい留学参加状況

| 日 時      | 閲覧した中学生や保護者の人数  |
|----------|-----------------|
| 6月 5日(土) | 1回目：25人 2回目：16人 |
| 6日(日)    | 1回目：18人 2回目：12人 |
| 7月 3日(土) | 1回目：13人 2回目：10人 |
| 4日(日)    | 1回目：5人 2回目：3人   |
| 7月31日(土) | 1回目：10人 2回目：8人  |
| 8月 1日(日) | 1回目：8人 2回目：5人   |
| 8月29日(日) | 1回目：20人         |
| 10月3日(日) | 1回目：7人          |

### ■定住財団・地域魅力化プラットフォーム主催

| 日時                | イベント名称       | 本校ブースへの参加者数 |
|-------------------|--------------|-------------|
| 10月30日(土) 10時～16時 | しまね移住ワンダーランド | 1人          |

### ■本校主催 個別説明会（情報 IT フェアオンライン企画の一部）

| 日時                   | イベント名称                  | 参加者数 |
|----------------------|-------------------------|------|
| 12月4日(土) 11:00～12:00 | YouTubeLive 情報 IT フェア特設 | 13人  |
| 12月5日(日) 13:00～14:00 | YouTubeLive 情報 IT フェア特設 | 9人   |



■よくある質問

- ・ 宿泊施設や暮らしについて・・・自炊・門限・管理者の有無・昼食・休日の過ごし方
- ・ 入試について・・・・・・・・・・時期・県外生枠・推薦入試・一般入試
- ・ 保護者・・・・・・・・・・学校に行く機会の頻度・生活が乱れないか心配
- ・ プログラミング・・・・・・・・基礎から学べるか
- ・ 学習サポート・・・・・・・・個人的な指導、サポートがどの程度あるか

■案内していること

- ・ オープンスクール、遊ぼう学ぼう講座・Facebook・twitter・Instagram・随時見学OK

■問い合わせ状況

県外からの問い合わせについては、下記の状況である。

しまね留学、地域みらい留学にオンラインで積極的に参加した結果、コロナ過であるにも関わらず、昨年度と同じくらいの問い合わせをいただいている。これまでは、女子生徒の受け入れ施設が無いことや、現在の男子専用宿泊施設が完全自炊、同じ建物に居住する管理者が不在であること、食事が無いことなどの課題があった。しかし、安来市定住政策課と連携、協議を進める中で、来年度からは、女子の宿泊施設や、男子専用宿泊施設の管理者、食事の提供などが可能になった。

▼令和4年1月時点での県外からの問い合わせ数（都道府県別・男女別）

| 問 い 合 わ せ 数 |       |   |    |       |   |    |       |   |    |
|-------------|-------|---|----|-------|---|----|-------|---|----|
|             | 令和3年度 |   |    | 令和2年度 |   |    | 令和元年度 |   |    |
|             | 男     | 女 | 合計 | 男     | 女 | 合計 | 男     | 女 | 合計 |
| 茨城県         |       |   |    | 1     |   | 1  |       |   |    |
| 埼玉県         |       |   |    | 1     |   | 1  |       |   |    |
| 千葉県         | 1     | 1 | 2  | 3     |   | 3  |       |   |    |
| 東京都         | 2     |   | 2  | 1     |   | 1  |       |   |    |
| 神奈川県        | 1     |   | 1  |       |   |    |       |   |    |
| 福井県         |       |   |    |       |   |    | 1     |   | 1  |
| 長野県         | 2     |   | 2  |       |   |    |       |   |    |
| 静岡県         |       | 1 | 1  |       |   |    |       |   |    |
| 愛知県         | 1     |   | 1  | 1     |   | 1  |       |   |    |
| 滋賀県         |       |   |    | 1     |   | 1  |       |   |    |
| 京都府         |       | 2 | 2  | 1     |   | 1  | 1     |   | 1  |
| 大阪府         |       |   |    | 2     | 2 | 4  |       |   |    |
| 兵庫県         | 5     |   | 5  | 2     |   | 2  |       |   |    |
| 奈良県         | 1     |   | 1  | 1     |   | 1  |       |   |    |
| 鳥取県         | 1     |   | 1  | 1     |   | 1  |       |   |    |
| 広島県         | 1     |   | 1  | 1     |   | 1  | 2     |   | 2  |
| 山口県         |       |   |    | 1     |   | 1  |       |   |    |
| 福岡県         | 1     |   | 1  |       |   |    |       |   |    |
| 熊本県         |       |   |    |       |   |    | 2     |   | 2  |
| 鹿児島県        | 1     |   | 1  |       |   |    | 1     |   | 1  |
| スリランカ       | 1     |   | 1  |       |   |    |       |   |    |
| ソウル         | 1     |   | 1  |       |   |    |       |   |    |
| 上海          | 1     |   | 1  |       |   |    |       |   |    |
| 合計          | 20    | 4 | 24 | 17    | 2 | 19 | 7     |   | 7  |
| 来校者数        | 14    | 1 | 15 | 15    | 1 | 6  | 7     |   | 7  |
| 都道府県数       | 16    |   |    | 13    |   |    | 5     |   |    |

また、島根県内で自宅からの通学が困難な遠方地域からの問い合わせは下記のとおり。

- 松江市 … 2名                      飯南町 … 1名                      江津市 … 1名
- 浜田市 … 1名                      吉賀町 … 1名

(3) 令和3年度3年生の進路状況

令和4年2月28日現在

|          | 就 職    |        |        |             |    |        |             |        |             |   | 進 学         |    |        |        | そ<br>の<br>他 | 合<br>計 |        |    |
|----------|--------|--------|--------|-------------|----|--------|-------------|--------|-------------|---|-------------|----|--------|--------|-------------|--------|--------|----|
|          | 地 元    |        |        |             |    | 県 外    |             |        |             |   | 公<br>務<br>員 | 計  | 大<br>学 | 短<br>大 |             |        | 専<br>門 | 計  |
|          | 安<br>来 | 米<br>子 | 松<br>江 | そ<br>の<br>他 | 計  | 京<br>浜 | 京<br>阪<br>神 | 山<br>陽 | そ<br>の<br>他 | 計 |             |    |        |        |             |        |        |    |
| マルチメディア科 | 3      | 1      | 5      | 1           | 10 |        |             |        |             |   | 2           | 12 | 1      |        | 12          | 13     |        | 25 |
| 情報処理科    | 4      | 1      | 8      | 1           | 14 |        |             |        |             |   |             | 14 | 6      |        | 9           | 15     |        | 29 |
| 情報システム科  | 4      |        | 7      | 1           | 12 | 2      |             |        |             | 2 | 1           | 15 | 4      | 2      | 12          | 18     |        | 33 |
| 計        | 11     | 2      | 20     | 3           | 36 | 2      |             |        |             | 2 | 3           | 41 | 11     | 2      | 33          | 46     |        | 87 |

1. 令和3年度 進学・就職状況分析

オンラインによる面接試験・選考試験が増加したが、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は昨年度よりも少なかった。指定校としての活動が進学希望者の学部・学科・コース、就職希望者の業種に大きな変化をもたらした。

(1) 進学について

- ・四年制大学進学者が増加（資料1）
- ・国公立大学合格者は過去4ヵ年で最多（資料1）
- ・進学者の中で情報系進学者の占める割合は大きく上昇（資料2）
- ・地元公立大学の連携校推薦入試の広がりを受験希望者の増加（資料3）

資料1

上級学校別人数

|        | 大学  |    |    | 短大 | 専門学校 |     |
|--------|-----|----|----|----|------|-----|
|        | 国公立 | 私立 | 合計 | 短大 | 医療系  | その他 |
| 令和3年度  | 5   | 6  | 11 | 2  | 4    | 29  |
| 令和2年度  | 4   | 9  | 13 | 6  | 9    | 16  |
| 令和元年度  | 1   | 5  | 6  | 7  | 6    | 19  |
| 平成30年度 | 1   | 5  | 5  | 4  | 5    | 20  |

資料2

情報系 進学

|        | 人数 | 進学者の中で占める割合 |
|--------|----|-------------|
| 令和3年度  | 13 | 30%         |
| 令和2年度  | 7  | 14%         |
| 令和元年度  | 5  | 13%         |
| 平成30年度 | 8  | 24%         |

資料3

島根県立大学地域政策学部地域政策学科 地域づくりコース 連携校推薦（令和2年度）

選抜方法 プレゼンテーション（2回）および面接

合格者プレゼンテーションの内容

生徒A：地域の農家・飲食店・地域をつないだ廃棄部分を活用するシステムの考案。  
イネプロジェクトや課題研究から学んだことを活かした研究・実践。

島根県立大学看護栄養学部看護学科 連携校推薦（令和3年度 新設）

選抜方法 連携活動①②に参加、課題講義受講、レポート（課題講義に関する内容）、面接

生徒B：課題講義での内容の一つ「創造的知性」について、多職種連携と関連づけて地域医療で試される創造的知性についてレポートをまとめた。

## (2) 就職について

- ・ 求人企業の数は昨年度とほぼ同程度（資料4）
- ・ 本校の就職希望者は令和2年度に引き続き減少傾向
- ・ 製造業からの求人が増加、県内IT関連企業への就職希望者の増加（資料5、6）

### 資料4 求人状況（企業数・Webは除く）

| 年度 | 就職者数 | 県内  | 県外  | 合計  |
|----|------|-----|-----|-----|
| R3 | 39   | 177 | 287 | 464 |
| R2 | 39   | 183 | 274 | 457 |
| R1 | 60   | 195 | 261 | 456 |

⑨R3は2/18現在のデータ

### 資料5 令和3年度 3年生の職種別データ

|      | 専門<br>(IT企業を含む) | 事務<br>(金融を含む) | 販売 | サービス | 技能 | その他 | 公務員 |
|------|-----------------|---------------|----|------|----|-----|-----|
| 進路希望 | 18              | 6             | 2  | 4    | 10 | 1   | 1   |
| 内定状況 | 8               | 8             | 4  | 4    | 12 | 1   | 3   |

### 資料6 IT関連企業 内定状況

|        | 人数 | 就職者の中で占める割合 |
|--------|----|-------------|
| 令和3年度  | 8  | 20%         |
| 令和2年度  | 7  | 18%         |
| 令和元年度  | 11 | 18%         |
| 平成30年度 | 1  | 2%          |
| 平成29年度 | 5  | 9%          |

## 2. 令和4年度に向けて

本校では、3年「課題研究」、および課題研究までの基礎学習を通して、課題発見能力や地域・企業・行政と協働して解決方法を考えるという学習の流れが定着してきた。この学習で身につけたスキルを就職・進学に活用できるように支援していきたい。特に地元IT関連企業への就職希望者が増加傾向にあり、新たな就職先の開拓に努めたい。国公立大学を始め四年制大学進学者のさらなる増加が予測される中、大学入試改革による選抜内容の変更も加速している（地元公立大学の連携校推薦入試など）。この変更にも対応できる学習・経験をしており、今後、身につけたスキルを選抜で活かす支援に力を入れたい。併わせて、より一層、基礎学力の定着および、1年「地域探究基礎」、令和4年度から新規実施の2年「地域探究応用」を充実させることで、3年「課題研究」をさらに深化させ、探究成果が進路決定・社会実装に繋がるように展開していきたい。

「STEAM教育の過程」を通じて、地域の課題を解決するための学びの内容も広い視野で選択することができるようになった。進学においては、学部・学科・コースの多様化が見られ、就職においては、地域課題に主体的に取り組むという強い気持ちで就職先を選択する生徒が増えてきた。

#### (4) コンソーシアムや他団体・企業と連携した取り組み



##### 【オールやすぎ食べ乗りクーポン】

安来市役所政策推進部やすぎ暮らし推進課から、依頼を受けて本校マルチメディア科3年の大島ありささんが、ポスター製作を請け負った。オールやすぎ食べ乗りクーポンは、安来市内の飲食店とタクシー業を支援するための事業である。これまで安来市の職員さんがデザインしていたが、コンソーシアムで連携していることをきっかけにして、本校へ依頼があり引き受けた。

マルチメディア科でCGデザインを専門的に学んできた大島さんが、その知識・技術を大いに発揮して製作した。安来市内の多くの飲食店や公共施設に掲示され、大きく目を引いている。コロナウイルス感染拡大の閉塞的な雰囲気がある中、美味しい食事を囲んでの家族団らんを提案するポスター図案となり、安来市長にも大変喜ばれた。今後も、市からのデザイン依頼については生徒のスキル発揮の場と考え積極的に受けていきたい。

活動日：令和3年10月末完成、披露

制作者：3年マルチメディア科 大島ありさ

##### 【やすぎいちごサークル】

第6回情報ITフェアでの企画で、フェア来場者に何かプレゼントしたいと思い、最初は「シトラスリボン」を作ろうと考えていた。しかし、よく調べてみるとシトラスとはシトラスリボン発祥の地である愛媛県の柑橘から来ていると知った。またシトラスリボンの意味はコロナ感染者に対し思いやりの気持ちを持つことや医療関係者への感謝などの意味合いが込められている。そこで、シトラス（柑橘）ではなく、やすぎのいちごで、コロナ終息も願いつつ、安来の地域活性化を進める仲間作りの輪を広げたい。このような想いから「やすぎいちごサークル」を着想した。このいちごストラップは、第6回情報ITフェア開催までに担当生徒が100個手作りし、遊ぶう


学ぼう講座の参加者に記念品としてプレゼントした。また、令和3年12月23日には100個を安来市役所に寄贈し、やすぎいちごサークルが広がるようお願いした。

今後このいちご製作活動を本校家庭クラブに引き継ぎ、製作活動を継続していく予定。このいちごストラップが安来を想う気持ちのシンボルとなり、多くの市民の気持ちを繋げる役割を果たして欲しい。

### やすぎいちごサークル

「安来が好き」「安来をもっと元気な町にしたい。そのために自分の力を発揮したい!」そんな風に、安来を想い、頑張るあなたは、大切な安来のビタミンです。私達は安来を想う人の輪(サークル)が広がれば、安来はもっと素敵な町になると思っています。安来の元気印「いちご」を身に付けて、同じ想いの仲間とたくさん繋がりましょう!

島根県立情報科学高等学校





▲令和3年12月23日 安来市長に披露



## VI 魅力化評価アンケート、学校評価アンケート分析

令和元年から、島根県全域で実施している高校魅力化評価アンケートに本校も取り組んでいる。今年度でのアンケート調査も3年目となり、3年間の推移を分析してみたい。

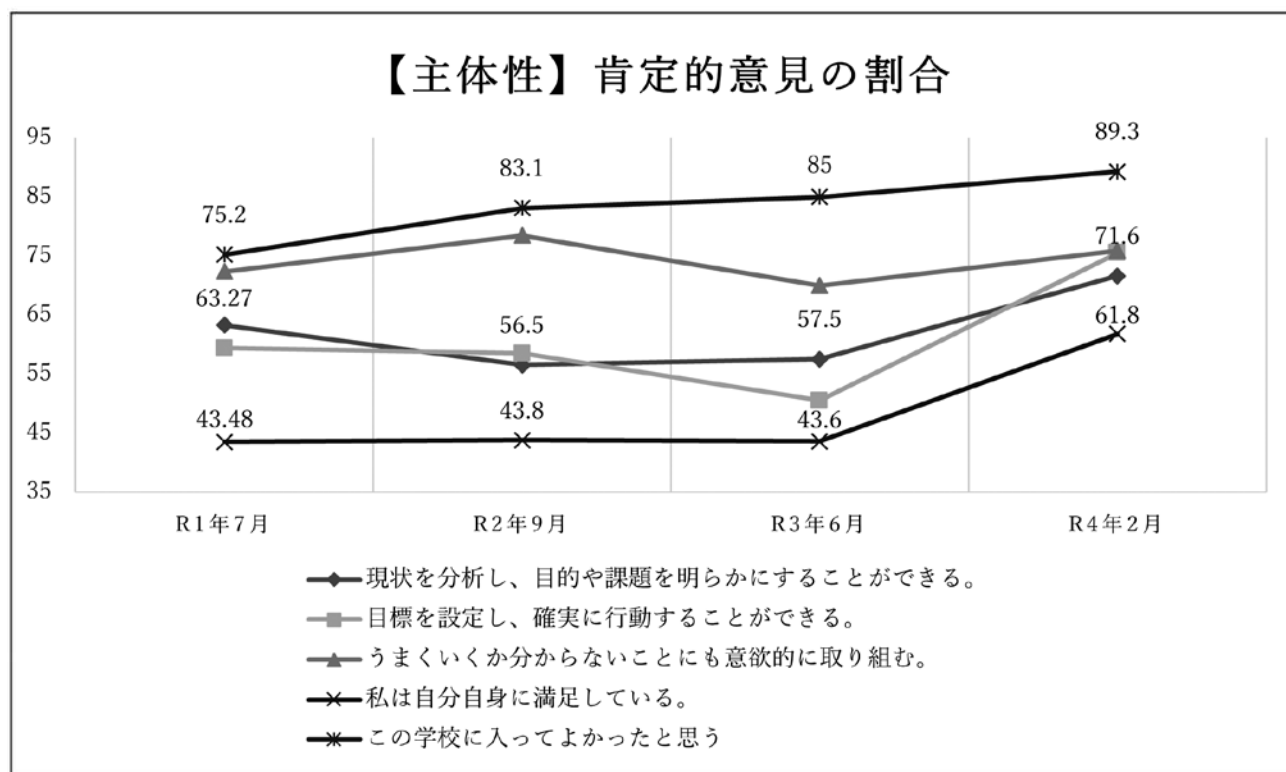
この3年間を振り返ると、令和2年度から文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」(プロフェッショナル型)に取り組み、本校の教育活動に大きな変化があった。また、タイミングを同じくして新型コロナウイルス感染症の拡大があり、突然の休校があるなど、これまで当たり前に行ってきた活動が変更せざるを得なくなった。部活動の試合が中止になったり、学園祭や情報ITフェアも大きく予定を変更して開催することとなり、生徒たちの積み重ねてきた努力を発揮する場や楽しみにしていた行事が失われることが増え、希望の持てない日々が続いたことは、生徒の心にも大きな影響をもたらしたと考えられる。

しかし、コロナ禍で大勢で集まれない、会えない、けれどその代わりにオンラインをする設備環境と、ノウハウが蓄えられ、柔軟に対応する力も育まれた。閉塞感を打破するために、ITスキルが活かされることを知り、情報科学高校らしい学びが大きな強みになり得るという可能性を感じる事ができた2年間だった。

さて、生徒たちの気持ちはどうだったのだろうか。本校が目指す、デジタルイノベーションを創出できる人材育成が、一体どれほどできたのだろうか。育みたい3つの力である、主体性、協働性、創造性と、そして自己肯定感、学校生活の満足感を、魅力化評価アンケートと学校評価アンケートから読み取ってみた。

なお、例年魅力化評価アンケートは1学期末あるいは2学期上半に実施されており、学年を終える頃の生徒の満足度や達成感が測れていないと考え、令和3年度の末(令和4年2月)に、調査項目を15に絞って、学校独自にアンケートしたため、下記グラフのデータは4回分となっている。

【主体性の指標の変化】

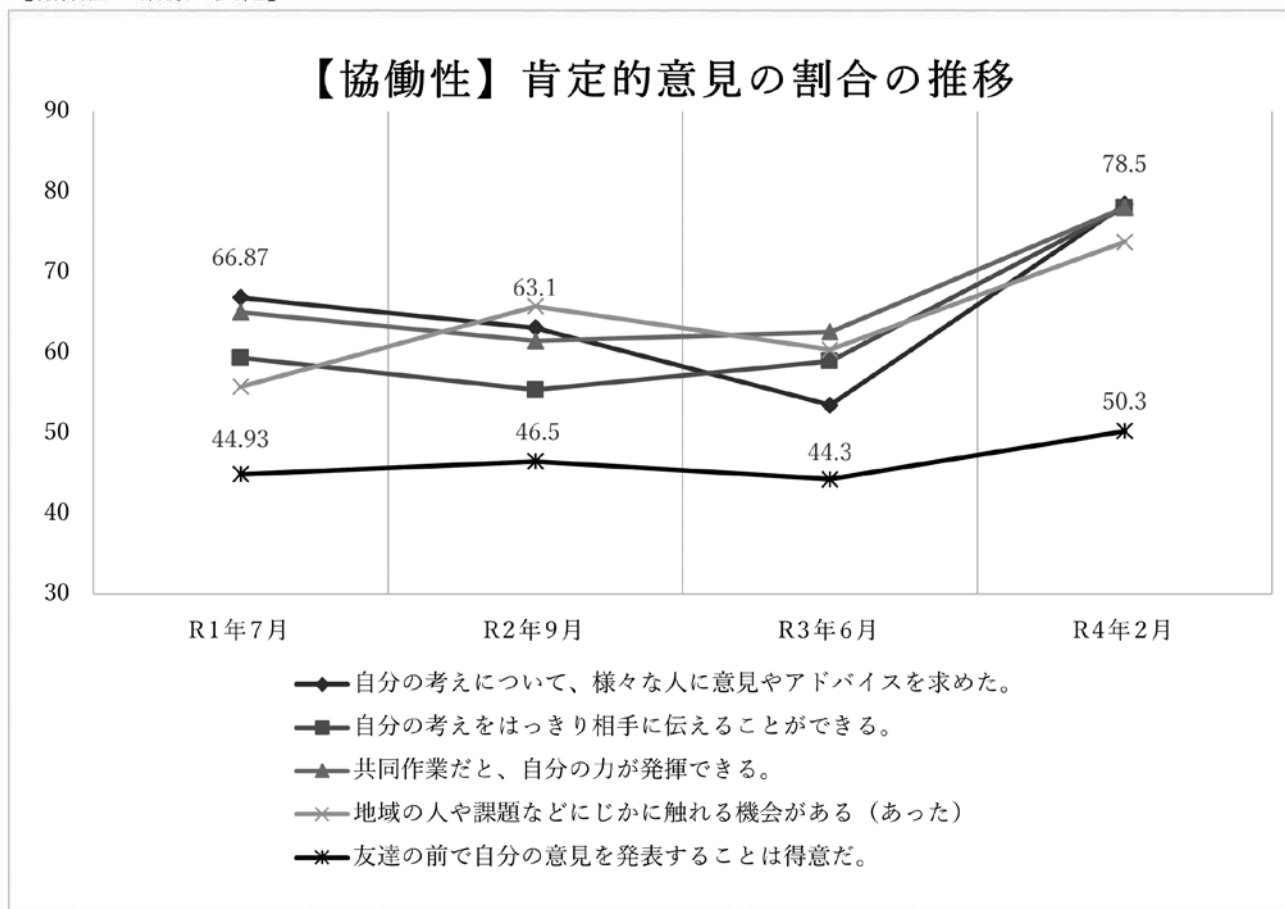


令和元年は指定校としての次事業実施前である。そこから令和2年、3年と2年間実施してきて生徒の主体性は少しずつ向上してきているようだ。特に「この学校に入って良かった」は肯定的意見の割合が高く、コロナ禍があっても、上昇を続けている。またもう一つ嬉しいのが、「現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる」の肯定的意見の割合が10%上昇した点だ。令和4年から始まった地域探求基礎や、2年生でのキャリア基礎、3年生の課題研究などのPBL学習が全校で実施され、答えのない課題に生徒一人ひとりが向き合い、「なぜだろう? どうしたらよいだろう?」と、深く考えながら活動できたことが、この結果につながっているのではないだろうか。また、すべての指標が令和4年2月には上昇しているのは、生徒が達成感に満ちたこのタイミングで



の調査だったからなのかもしれない。「私は自分自身に満足している」が高まったのも、学園祭や情報 IT フェアの業務、検定試験、3年生は進路決定を成し遂げた、この2月末という時期が後押ししているのではなかろうか。

### 【協働性の指標の変化】



協働性では、チームでプロジェクトを遂行したりする際や、グループ学習、部活動や委員会活動での話し合いなどで、どんな力が育まれているのかを調査した。

ここでも令和4年2月にやや肯定的意見の増加がみられる。

地域探究基礎の履修が始まったことや、「主体的・対話的で深い学び」が教務部からも積極的に呼びかけられ、教員主導の一時的な授業スタイルから、生徒たちにペアやグループで考えさせて、他者の意見を聞き、また自分の考えも述べるという活動が増加したことに起因するのではないだろうか。仲間内で話すうちに、友人の優れたところや共感できるところを見つけるだろうし、自分の弱みと強みを見出すこともできたのではないだろうか。そういった点が、「共同作業だと、自分の力が発揮できる」の向上につながったのではないかと思う。授業内でも、積極的に発言したり、小グループ内であってもプレゼンする機会が増え、どんな意見でも友人や先生に認めてもらえた経験から達成感を覚えたり、自分に自信が持てるようになったのかもしれない。

また、地域探究基礎や情報 IT フェア、遊ぼう学ぼう講座のスタッフ経験者が増加し、地域の人と触れ合うことも増加したことが、結果となって表れているように思う。

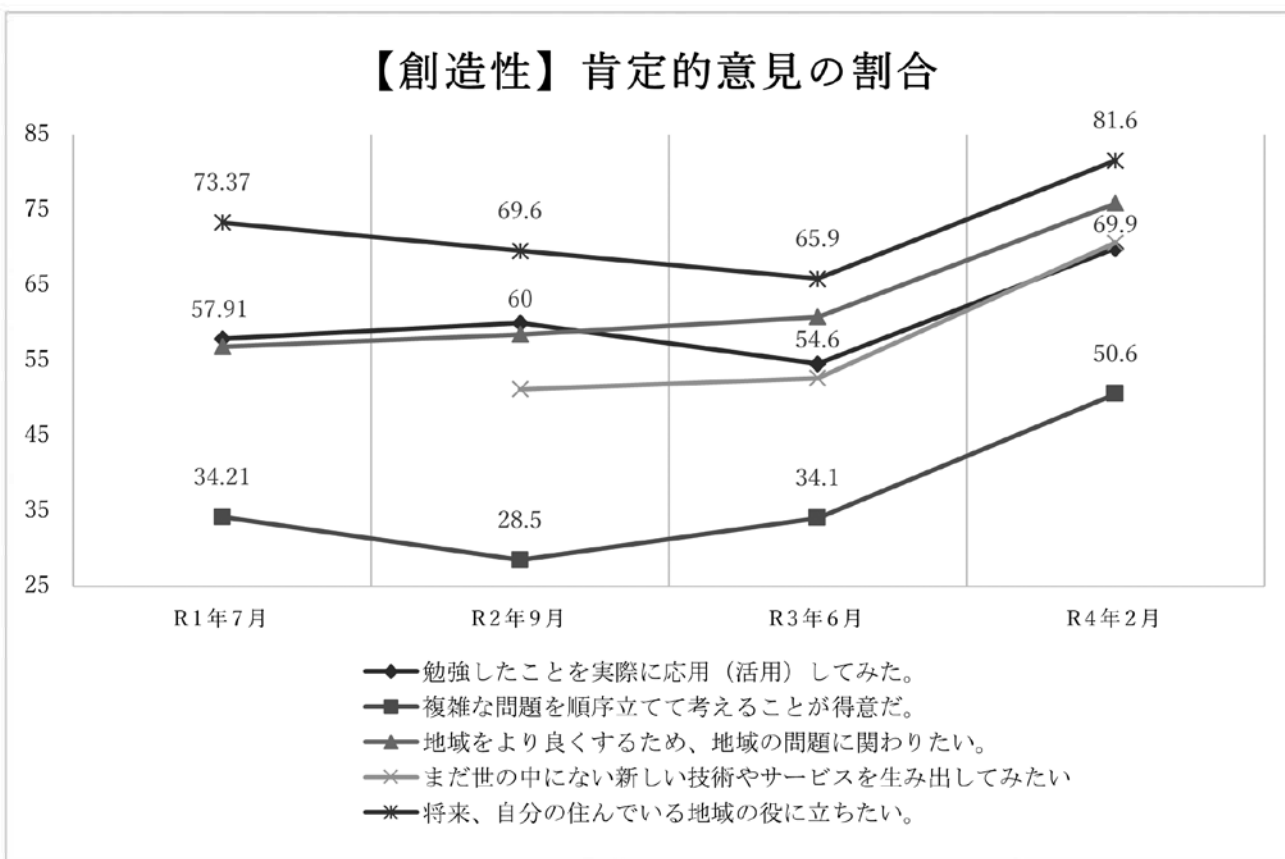
### 【創造性の指標の変化】

令和元年から、令和3年にかけてあまり変化がない、あるいはやや肯定的意見の割合が低下しているものもあったが、その一方で一貫して肯定的意見の割合が増加している指標は「地域をよりよくするため、地域の問題に関わりたい」と「まだこの世にない新しいサービスを生み出してみたい」などの、意欲的な指標だ。自分でも地域の役に立てるのかもしれない、ITスキルを活用して自分も何かできるかもしれないという、自分や社会に期待を持っているのを感じる。3年生については、課題研究で既にそういった新しい商品やサービスを生み出した実績があり、その自己有用感があるように思う。1・2年生も、そんな先輩方の活躍を見て、自分たちもできそうだという可能性を感じているのではないだろうか。

学校全体としても、ICT 活用が活発で新しいものに積極的に取り組んでいたり、各種の活動が絶えず改善されており、ポジティブな雰囲気が常に漂っている。例えば、女子生徒の制服改善（パンツスタイル）やeスポーツ活動の開始、Google フォームの活発活用など、多くのものがその在り方を進化させた。そういったことが、この指標向上の背景にあるのではないだろうか。

また、「地域の問題に関わりたい」が向上している一方で、「自分の住んでいる地域の役に立ちたい」が減少しているのは、学習活動としては地域に関わりたいが、卒業したら地元・安来を離れたたいという希望をもっているのではないかと推察する。

高校卒業後、地元を離れたとしても関係人口、交流人口など島根・安来を想いながら、培った知識・技術を活用して、各地で活躍してもらいたい。

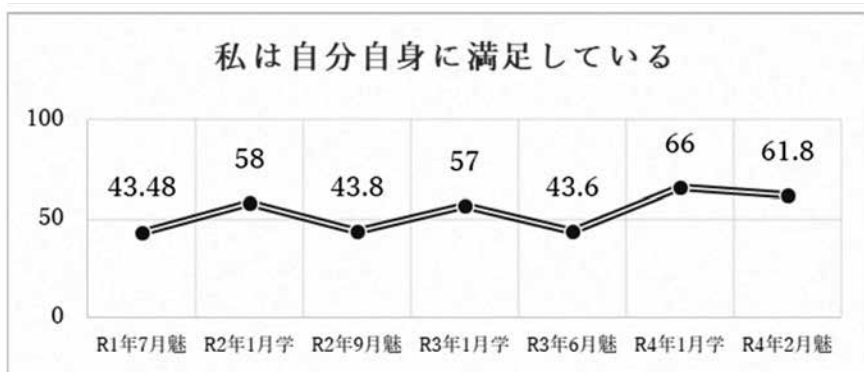


#### 【自己肯定感の推移】

下記グラフは、自己肯定感の肯定的意見の割合の推移である。おもしろいようにジグザグと上がったたり下がったりを繰り返しながらも、令和4年以降はやや向上する結果となった。

傾向としては、魅力化評価アンケート（1学期実施）のものはやや低く、学校評価アンケート（3学期実施）はやや高めに出る。これは調査時点の生徒の心情を如実に表現しているのではないだろうか。

1学期はまだ不安があったり、1年生はまだ入学後の不安、2年生は新クラスにまだ緊張した状況、また学科に分かれての専門的な学びに苦戦している頃だろうか。しかし3学期になると不安も和らぎ、居心地も良くなって、

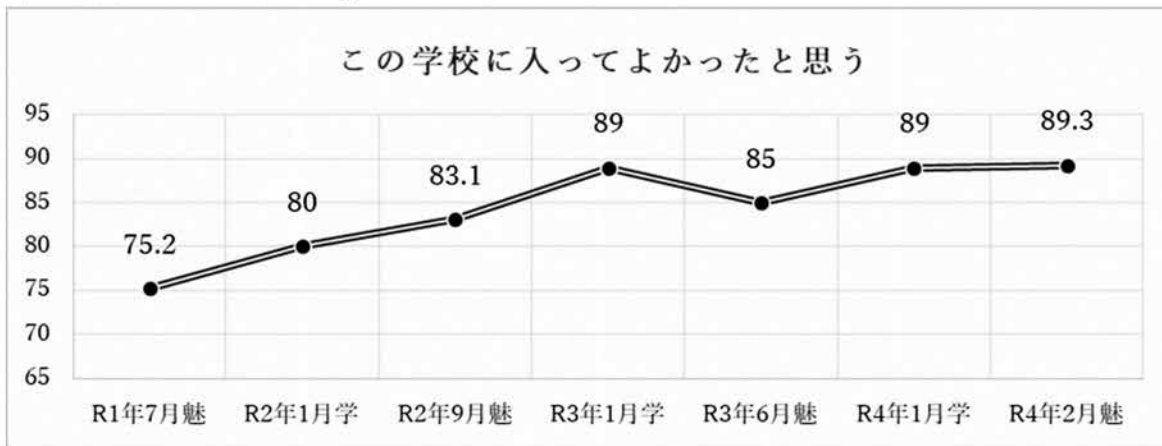


自分らしさが少しは出せたり、様々な活動を経て自分の知識や技術を活かし、自分の成長を実感できていることと思う。

自己肯定感の向上が、本事業の目指しているところだが、少しずつ成果が出てきているということだろうか。

※学：学校評価 魅：魅力化アンケート

## 【この学校に入って良かった】



※ 学：学校評価 魅：魅力化評価アンケート

生徒の学校生活に対する満足感を表現している。文部科学省事業実施前（R1年7月）から、肯定的意見の割合が増加する傾向にある。コロナ禍もあって、生徒には悔しい想いをさせることも多かったように思うが学校に対する不満はあまり無いようだ。

生徒一人ひとりを大切に、何かあれば親身になって相談にのってくれる組織になっている。生活アンケートで生徒の困りごとや悩みにきめ細かく対応しており、学習面、生活面において満足度は高いということだ。地域との連携も多くなり、生徒が地域の人と触れ合いながら、生徒の良いところを発揮する機会は明らかに増加し、「凄いね!」「素晴らしい!」と、教員が生徒を褒めることも多くなった、地域の方からのお褒めの言葉もたくさんかけていただいた。新聞やテレビなどメディアでの報道も多くなり、「情報科学高校」のブランド的な価値がやや向上したのではないだろうか。

まだまだ課題も多くあるが、生徒一人ひとりが胸を張れる学校にしていくこと、生徒一人ひとりが「私たちの学校」という、学校全体を大切に思う気持ちが、ますます育ってくれれば嬉しい。そのような気持ちが育っていけば、公共心や地域を想う気持ちもまた育つと思う。生徒が自分自身に自信をもって、自身と学校とそして地域を大切に想い、そのために学んだ知識を活用していくことができるように、令和4年度も研究開発を発展させたい。

# 情報科学高校 グランドデザイン 2021

《目指す生徒像》 ～地域との協働を通じたデジタルイノベーションイノベーション創出人材の育成～

「校訓」

**明朗・気概・思いやり**

「教育目標（本校の使命）」

普通教育ならびに情報・ビジネスに関する専門教育を施し、健康で心豊かな人間性を育成する

- ① 地域を担う、情報・ビジネスに関する将来のスペシャリストの育成【専門性の育成】
- ② 社会人としての規範性や倫理観を見につけた感性豊かな人間の育成【人間力の育成】

「育成したい資質・能力」

- ① 地域の課題や動向に関心を持ち、主体的に取り組む能力（主体性）
- ② 他者と円滑な人間関係を構築する能力・協働する能力（協働性）
- ③ デジタルテクノロジーを活用し新たな価値を創造する能力（創造性）

「育成したい資質・能力の構成要素」

- ①（主体性） ● 自己変革につながる目標設定力 ● 「なぜ？」を深掘りする探究力
- ②（協働性） ● 社会で通用する自己表現力 ● 他者の意見や価値観を受容する力 ● チームで協働し、実践する力
- ③（創造性） ● 新たな価値を創造しようとする気概 ● 課題解決のためにITを活用する力

## IT・データサイエンス

### 本校の強み

教職員（教科・分掌・学年会）

- 目指す資質・能力を育成することを
- 且々の教育活動の最終的な目標として
- ・年間指導計画の策定
- ・日々の授業の実施・改善

## 協働

情報科学高校  
魅力化コンソーシアム  
(行政・企業・小中学校・高校)

### 安来の地域資源

- ・ 伝統工芸・文化・日本遺産 (藍染め、和紙、イラスト、こて絵)
- ・ 月山富田城、2つの美術館、安来節
- ・ 特殊鋼（ヤスキハガネ）を中心とした高い技術付加価値の高い製品
- ・ 自然（水、川、滝、山、田）
- ・ 農業（米、いちご、梨、ぶどう、牛）、どじょう
- ・ 便利な交通網（空港2つ）

### 地域資源 地域の強み

### 学校設定教科 「地域探究」

#### 1年生 「地域探究基礎」

～新たな価値を創造する基盤をつくる～

#### 2年生 「地域探究応用」

～新たな価値の創造にチャレンジする～

#### 3年生 「課題研究」

～探究成果の社会実装を目指し行動する～

基礎として：基礎学力の定着（文章力、語彙力など）

公共心 自律心 調整力

iPadの活用 e-learning による個別最適学習



山陰中

# おしゃれだよ荒島駅舎内

【安来】JR山陰線の無設も計画しており、子ども入駅、荒島駅(安来市荒島)から高齢者まで幅広い世代の古い駅舎内を、荒島の憩いと交流の場として活性化推進協議会(勝部幸)が、おしゃれな空間に改装し、駅舎は約20年前にJR西日本が安来市に無償譲渡して木製カウンターの新しい、現在は地元荒島地区の活性化推進協議会(勝部幸)が主体的に改装し、メンバークラスが代表を務める生活支援協議会「未来あらしま」が主体となり、メンバーがDIY(日曜大工)で実施。情報科学高校(安来市能義町)の3年生8人も、課題研究の一環で基本構想段階から参画した。



改装を終えた荒島駅の待合室を見学する関係者—安来市荒島町

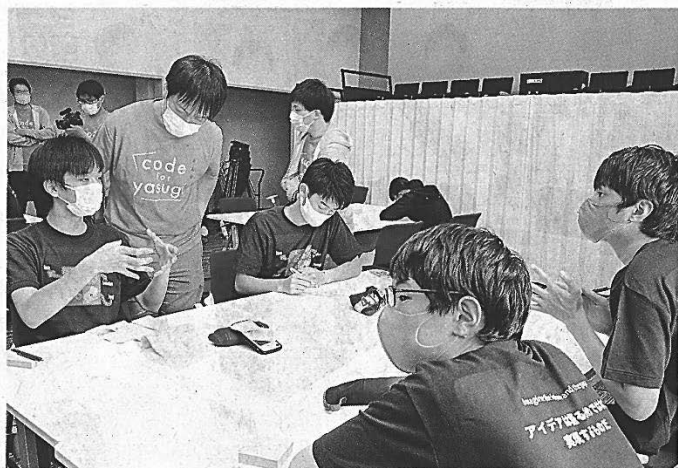
待合室(29平方メートル)の床はコンクリートから杉板張りに変え、壁も杉板とつくいを使って温かみのある雰囲気仕上げた。旧宿直室(10平方メートル)は同協議会と未来あらしまの共同事務所として改装し、隣接の待合室との間を木製カウンターで仕切った。材料費は約150万円。東京の民間財団の助成金も受け、昨年12月から作業してきた。

28日に現地で改装終了の記念式典があり、関係者約30人が出席。未来あらしまの勝部代表は「駅利用者や地区内外の人たちが気軽に利用し、楽しく交流できる場所にしたい」と話した。(渡部豪)

## デジタル人材育成講座 地域の課題解決学ぶ

安来市

安来市で、高校生や大学生に情報通信技術(ICT)を活用した地域課題解決を



地域課題について意見を出し合う受講者—安来市亀島町、さんそ学習館ケイオス

学んでもらう講座が15日、「展開や地域運営の可能性が始まった。産業振興や中山間地域支援といった分野でデジタル技術を使った事業「シエクト」と銘打ち、情報市が「イイネやすぎプロジェクト」を話し合う。

システムに詳しい人材育成、若者が主体的に地域課題に関わる機会づくりを目指す。

来月2月まで19回を予定する講座の初回は、安来市亀島町のさんそ学習館ケイオスであり、島根大生2人、情報科学高校(安来市能義町)の生徒9人が顔を合わせた。

講座の運営は地元のIT技術者や教員ら6人でつくる任意団体「Code for Yasugi(コード・フォー・ヤスギ)」。池田和司代表が担い、研修や企業・団体への訪問調査といったプログラムを提供する。

情報科学高3年の西山海斗さん(17)は「課題解決力を高め、地域に貢献できる人材になりたい」と話した。(渡部豪)

出雲・石見・鳥取

izumo iwami tottori

2021年(令和3年)7月13日(火曜日)

# 外食の喜びデザイン



ポスターを手にする大島ありささん  
—安来市安来町、市役所安来庁舎

【安来】安来市能義町のイルスの影響を受ける市内、情報科学高校の大島ありさ(18)が、新型コロナウイルス支援事業のPRポスターを、む家族のイラストとロゴを

デザイン。近く各店舗や市有施設などに掲示される。地域課題解決型学習に力を入れる情報科学高に、市が協力を依頼。デザイン力に優れているとして、マルと、食器とタクシーをあしチメディア科3年の大島さんが選ばれた。

PRするのは、市内の参加事業所(28日現在、109店・社)で使える3千円分の割引クーポン券の発行事業。全市民に11月中旬に配布され、来年2月15日まで使用できる。市は同様の事業を昨年度も実施した。

大島さんは、前回配布されたクーポン券を利用して家族で外食を楽しんだ思い出を基に図柄を考案。パソコンを使い、親子が仲むつまじく食事をするイラストに、食器とタクシーをあしらったロゴを仕上げた。

28日に市役所を訪れ、田中武夫市長に完成報告し、「ポスターを見た人が、家族や大切な人と食事に出かけたいと思ってくれればうれしい」と話した。

ポスターはA2サイズで300枚作った。

(渡部豪)

## 高校情報処理競技 情報科学が団体V

### 全国大会出場

情報分野の知識を競う全国高校情報処理競技大会の島根県予選がこのほど、

設け、利用促進につなげる。朝食は軽食のサービスを行う。

従来行っていた日帰り温泉も取り入れ、5月からの二

が大切」と述べた。「1人で過ごすのではなく、他人と交流することで病気に掛

(石倉俊直)

大田市仁摩町仁万の仁万まづくりセンターが開かれた。団体の部は情報科学が、個人の部は金本空大さん、出雲商2年、藤井亮太さん、浜田商3年、25日に広島市で開かれる全国大会への出場を決めた。

商業科目を学ぶ県内5校の生徒22人が参加し、関連用語や表計算、プログラム



大会で入賞した生徒たち  
大田市仁摩町仁万、仁万まづくりセンター

山陰中央新報 令和3年10月30日 掲載

山陰中央新報 令和3年10月24日 掲載

## 荒島駅で演奏会



新型コロナウイルスの感染防止対策を取りながら、演奏を披露する生徒—安来市荒島町

【安来】安来市荒島町のJR荒島駅舎内で23日、情報科学高校吹奏楽部の5人がトロンボーンやアルトサクソフーンなどを演奏し、乗降客や地元住民を楽しませた。

トロンボーンを演奏した2年生の吉原ヒカリ副部長(16)は「コロナ禍で人前の演奏機会が減っていたので少し緊張した。地域を盛り上げる一助になればうれしい」と話した。

(渡部豪)

待合室を改装したフリースペースを会場に、新型コロナウイルスの感染対策

# 大豆使った洋菓子3種 安来 情報科学高生が考案



開発した商品について説明する情報科学高校の生徒(中央)＝松江市朝日町、島根銀行

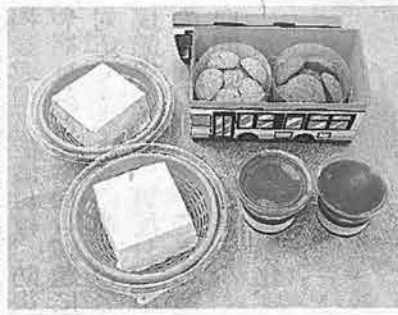
「山陰の雪のような冷たくてもどこか温かみのある白を表現した。光が当たると

とで生み出される陰影を見てほしい」と話した。  
入場無料。作品は購入できる。平日と土曜が午前10時から午後7時、日曜は午後6時半まで。最終日は午後4時まで。(黒沢悠太)

安来市内の豆腐屋と洋菓子店、島根県立情報科学高校(安来市能義町)の生徒が連携し、地元産大豆を使った洋菓子3品を開発した。支援する島根銀行の本

り、考案した生徒7人が特徴を説明しアピールした。島根銀の産学金連携プロジェクトの一環。豆腐製造の角久(安来市安来町)が扱う安来市産の大豆を原料

(同)が製造を担当した。島根銀はモニター調査や販売先の紹介で協力する。完成したのは、豆乳と安来市産イチゴを使用した「やみつき豆乳いちごプリン」、見た目が豆腐そっくりの豆乳入りレアチーズケーキ「なんちゃって豆腐」、「まさげな豆乳おからクッキー」の3品。



大豆を使った洋菓子3品

生徒は役員や行員を前に商品開発の経緯や使う材料などを説明し、試食を勧めた。行員は「甘さ控えめでおいしい」「豆乳の味がしっくりする」などと感想を語った。試食した行員90人からアンケートを取り、味

山陰中央新報  
eスポ部活躍後押し  
情報科学高 県連合が激励式典  
今春、島根県内の高校で発足した「eスポーツ部」を後押ししようと18日、県eスポーツ連合(出雲市浜町)が情報科学高校(安来市能義町)で創部記念式典を開き、関係者が新興分野での県勢の活躍を願った。  
eスポーツはゲームの腕前を競う。県内では同校のほか、立正大浜南高校(松江)、江科大(松江)、同校(江津市大庭町)がeスポーツ部を創部済みで、フリスビー連盟(東京都千代田区)のクール・こころの宝石箱(同市学園2丁目)などが創部を準備中、県内でeスポ



式で創部の決意を述べる小山篤司キャプテン(左)と部員たち＝安来市能義町、情報科学高校

数の問い合わせが寄せられたと坂根館長。「市民、県民にとって大事な石なので、持つて帰らないでほしい」とも付け加えた。開館時間は午前9時から午後5時。月曜日と祝日の翌日は休館。

山陰中央新報  
令和3年5月19日  
掲載

市内イベントやスーパーでの販売を予定しており、3年の野々内萌花さん(17)

生かし、喜んでもらえる商品を作りたい」と話した。(平井優香)

大浦理事は、毎年開催される高校生の全国選手権でようやく県代表の枠が埋まるとを喜び「県の代表として出場できるよう、頑張ってもらいたい」と激励した。3年の小山篤司キャプテンが「eスポーツを通じて安来を盛り上げ、学校と地域の誇りになる部にした」と決意を述べた。(中島諒)



安来市 情報科学高

# AI人材育成へ公開授業 3タイプのモデル作成



人型ロボット「ベッパ」に組み込まれたAIモデルを披露する生徒。情報科学高、安来市能義町。

人工知能(AI)を活用するため全国の高校で22年度、プログラミングなどを学ぶ必修科目「情報1」と選択科目「情報2」が始まる。これを見据え同社は、情報1に対応した「AI活用リテラシー」と、情報2に合わせた「AI活用実践」の2コースのプログラムを開発した。

公開授業では生徒代表3人が、性別や年代などから予測して客に最適なメガネフレームを提案する▽駐車場の状況を識別して空き具合を知らせる▽読みたい本を伝えると図書室のどこにあるかを自動応答する「AIモデル」を披露。人型ロボット「ベッパ」に組み込んで実演した。

発表した松本梨那さん(18)は「難しいと思っていたが、アプリで意外と簡単に作ることができた。AIへの理解が深まった」と話した。

出雲・石見・鳥取  
izumo iwami tottori

(渡部 豪)

山陰中央新報  
令和3年11月25日  
掲載



コントローラーとチラシを手に、参加を呼び掛けるeスポーツ研究会のメンバー。安来市能義町、情報科学高校。

## eスポーツ盛り上げたい

ゲームの腕前を競うeスポーツのオンラインイベントが12月4、5両日、情報科学高校(安来市能義町)で開かれる。活動を支援してくれた関係団体のプレーヤーを招いた対戦会や一般参加を募る交流会を予定。生徒主催のeスポーツイベント「交流を深める」ことが活動の目的。

4日は午後1時から、サッカークラブ「立正大」の参加は30日までQRコードの申し込みサイトで受け付ける。(中島 諒)

### 来月4、5日 情報科学高が催し

トは島根県内では珍しく、部員は「これまでの支援への恩返しになるよう盛り上げたい」と腕をまくる。

研究会は4月、情報科学部内の一チームとして創設された。以降、普及活動に

理念の一つ。学習成果を発表する場として情報科学高が毎年開く「情報1TFエー」の催しの一環として、イベントを企画した。

4日は午後1時から、サッカーに似た対戦ゲーム「ロケットリーグ」で立正大



フォトナ  
イト交流会  
の申し込み  
はこちら

「ロケットリーグ」で立正大の参加は30日までQRコードの申し込みサイトで受け付ける。(中島 諒)

日本海新聞  
令和3年11月26日  
掲載

# 安来産食材で 新スイーツ開発

高校生のアイデアを取り入れた。12月上旬から市内の店舗  
れ、安来産の大豆製品やイチゴで先行販売される。  
を使った新スイーツが開発さ 情報科学高生、モントローネ洋  
安来市役所で試食会が行わ 菓子、角久（豆腐） 島根銀行に



## 情報科学高生ら 地産都消プロジェクト

よる産学連携プロジェクト。地産地消から地産都消につなげようと、今年4月からそれぞれが役割分担して取り組んできた。開発したスイーツは、安来産大豆を使ったレアチーズケーキ「なんちゃって豆腐」、豆乳と安来産イチゴの「やみつぎ豆乳いちごプリン」、マおからを使用したまじりなおかクッキー」の3種類。  
チーズケーキは見た目が豆腐で、食べたときのキツプや低カロリー、低糖質、高タンパクをアピール。プリンはとろける滑らかなイチゴのビュレが特徴。クッキーはアレン、アイモンド、抹茶の3種類で、イエローバスをイメージした箱に入れて販売して安来らしさを出す。  
9日の試食会で、課題学習でプロジェクトに参加した情報科学高の3年生7人が商品説明に当たり、田中武夫市長が試食。マルチメディア科3年の倉本有菜さん(17)は「幅広い年代の人に食べていただける商品にした。食感や甘さ加減、パッケージデザインを工夫した。出来栄には満足」と話し、今後の販売に期待を寄せた。  
新スイーツは店頭販売に先立ち、12月5日に安来庁舎前のイルミネーション灯柱式と同時開催されるマルシェで試験販売される。(久保田恭子)

山陰中央新報  
令和4年1月26日  
掲載

# 事業所の広報物デザイン 安来・情報科学高生



自作のポスターデザインを発表する生徒  
—安来市能義町、情報科学高校

情報科学高校（安来市能義町）の生徒が、授業で培ったコンピューターグラフィックなどの知識と技術を生かして、安来市内の4事業所のポスターやロゴマークといった広報物をデザインした。25日に同校で完成発表会があり、関係者に披露。作品は実際に使われる予定といい、高校生の若い感性が地域の活性化に役立つ。  
安来市の官民組織「産業サポートネットやすぎ」との連携事業で初めて企画。3年生17人でつくる「CGデザイン班」が課題研究の一環で取り組み、美容サロン、文具店、配管工事業者、市の交流拠点施設・やすぎ懐古館一風亭の広報物デザインを依頼された。

インを手掛けた。生徒たちは、各事業者から希望の配色や絵柄を聞き取り、パソコンを使って意匠化。発表会では中間選考を通過した8人が、見やすさに重点を置いた包丁研ぎイベントの告知ポスター、パイプをイメージした配管工事業者のロゴマーク、釣り好きの経営者のために魚のイラストをあしらった名刺などのデザインを披露し、狙いやメッセージを説明した。  
美容サロンのポスターを制作した情報システム科の小川太一さん(18)は「依頼主と自分のイメージをすり合わせ、お客さんの心理も考えながらデザインするのが難しい半面、面白かった」と話した。



包丁研ぎイベントの告知ポスター

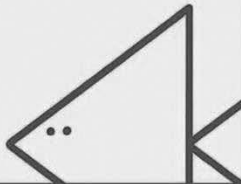
# Lunker Works

パイプをイメージした配管工事業者のロゴマーク

NAME \_\_\_\_\_

address \_\_\_\_\_  
mail \_\_\_\_\_  
phone \_\_\_\_\_

Lunker Works



(渡部豪)

魚のイラストをあしらった名刺



山陰中央新報  
令和3年12月24日  
掲載

# 安来愛育むストラップ

古里を愛する気持ちの輪を広げようと、情報科学高校（安来市能義町）の生徒が23日、安来市特産のイチゴをモチーフに手作りストラップ100個を作り、市に贈った。市は、住民や出入り業者と接する機会が多い職員に身につけてもらい、活動の広がりと安来のPRに役立てる。（渡部 肇）



手作りしたストラップを披露する情報科学高校の生徒＝安来市安来町、市役所安来庁舎

## 特産イチゴ題材 手作り

### 情報科学高校生 市に贈る

ストラップは、赤やピンクに付けて活動を発信する。クッキーの紙バンドを編み込んで、市民向けイベント情報や医療従事者への差別・偏見防止を願うストラップ作りを考え、安来市役所に名刺ストラップなど100個を贈った。当初は盛り上げようとイチゴのストラップにしたり、参加者は



安来特産のイチゴをモチーフにしたストラップ

新型コロナウイルス感染者や医療従事者への差別・偏見防止を願うストラップ作りを考え、安来市役所に名刺ストラップなど100個を贈った。当初は盛り上げようとイチゴのストラップにしたり、参加者は

21

地域

2022年（令和4年）1月11日（火曜日）



「月山富田城鹿肉カレー」の完成を喜ぶ（左から）高橋珀さん、梶村聖音さん、河野太一さん＝安来市能義町、情報科学高校

## 鹿介ちなみ鹿肉カレー

### 情報科学高校生が考案、今春発売

島根県立情報科学高校（安来市能義町）の生徒3人が、郷土の人気武将・山鹿介をコンセプトにした「月山富田城鹿肉カレー」と名付、安来市役所の獲得に成功した。鹿肉が食べられ、安来市役所の獲得に成功した。鹿肉が食べられ、安来市役所の獲得に成功した。



「月山富田城鹿肉カレー」のパッケージ

「月山富田城鹿肉カレー」の完成を喜ぶ（左から）高橋珀さん、梶村聖音さん、河野太一さん＝安来市能義町、情報科学高校

「月山富田城鹿肉カレー」の完成を喜ぶ（左から）高橋珀さん、梶村聖音さん、河野太一さん＝安来市能義町、情報科学高校

## 石見神楽振興に貢献

### 広域連絡協8企業・団体表彰

石見神楽団体や県西部9久保田市浜田市黒川市町村などをつくる石見神楽協会が、このほど、浜田市黒川市役所と連絡協会の会長・町の石見文化ホールであり

## 出雲・石見・鳥取

izumo iwami tottori

## AIやVRで解決

イチゴの大きさを識別するAIモデルを披露する情報科学高校の生徒。安来市安来町、市役所安来庁舎



紙面編集・瀧 加奈恵

サイトの制作▽仮想現実(VR)の技術を用いてドローンの操作方法を学ぶ仕組み作り▽AIを使った農作業の効率化の各テーマについて、関係分野の企業・団体の協力を受けてプランを練った。

このうち、果実を識別してパック詰めする作業がイチゴ農家の大きな負担になっている点に着目した班は、サイズを瞬時に識別できるAI搭載のメガネ形端末を着けて収穫作業をすることで、選別作業も同時にできる仕組みを提案。AIモデルを試作し、パソコンを使って実演した。

【安来】安来市のデジタル人材育成講座「イイネやすぎプロジェクト」の成果発表会が26日、市役所安来庁舎であった。受講した高校生9人が人工知能(AI)を使ったイチゴの大きさの判別システムなど、情報通信技術を活用した地域課題解決のアイデアを披露した。

情報システムに詳しい人材育成、若者が主体的に地

域課題に関わる機会づくりを狙い、市が昨年5月に開催。地元のIT技術者や教員らでつくる任意団体「Code for Yasu」(コード・フォー・ヤス)

生徒は3班に分かれ、地の講座を開く方針。(渡部豪)

市は2022年度も同様の講座を開く方針。

## 金融業界の現状学ぶ 情報科学高 支店長招き授業



生徒に金融業界の現状などを説明する森脇俊史支店長。安来市能義町、情報科学高校

例を交えて紹介。貸借対照表や損益計算書を基にしたコンサルタント業務のロールプレイ(役割演技)もあり、生徒たちは銀行業務での簿記・会計知識の重要性について理解を深めた。2年の加藤拓未さん(16)は「財務諸表の見方など、授業で学習する知識が実社会で役立つことが分かって良かった」と話した。(渡部豪)

安来市能義町の情報科学高校でこのほど、銀行員を講師に招いた特別授業があり、1、2年生52人が金融業界の現状や、授業で教わる簿記・会計知識が実社会でどのように活用されているかを学んだ。

山陰合同銀行安来支店の

森脇俊史支店長(54)と石田卓也次長(44)が、情報処理科の2年生24人、新年度から同科で学ぶ1年生28人に講話した。

金融自由化や規制緩和と、決済の電子化が進む現状、企業の経営状態を把握するための財務諸表の見方を実





